

大学名 北海道大学

表題 「研究とともに、人の可能性を開拓する」をビジョンに、リカレント教育を全学的に推進



道外の受講生も参加した、ささプロ(共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム)の開講ワークショップ。4ヶ月の開講期間中、オンデマンド講義で学ぶ他、3回の選択ワークショップと、1回の必修演劇ワークショップを実施。



オンラインでの学習を可能にするラーニングマネジメントシステムを導入。上掲は「GX未来社会デザイン実践プログラム(基礎編)」の講義動画を閲覧している様子。本プログラムは2026年にさらに充実させて本格展開を予定している。

全学的体制でプログラム実施を支援

北海道大学リカレント教育プログラム(以下「ReH」という。)は、テーマや受講目的に応じた3タイプの社会人向けプログラムを提供しています(右図)。

ReHは、総合大学の強みである多様な分野と、広大なキャンパスを生かし、自治体や企業と連携して、従来の公開講座よりも実践的かつ専門性の高い学びを提供しています。

このようなリカレント教育の持続的な実施を目的として2022年度にリカレント教育推進部が設立されました。そして、プログラムの企画支援、自由度の高い受講料設定や実施組織へのインセンティブ付与が可能な制度整備、オンライン受講料決済システムやリカレント専用学修支援システムの構築をこれまでに実現しました。

さらなる質の保証と新たな大学像を目指して

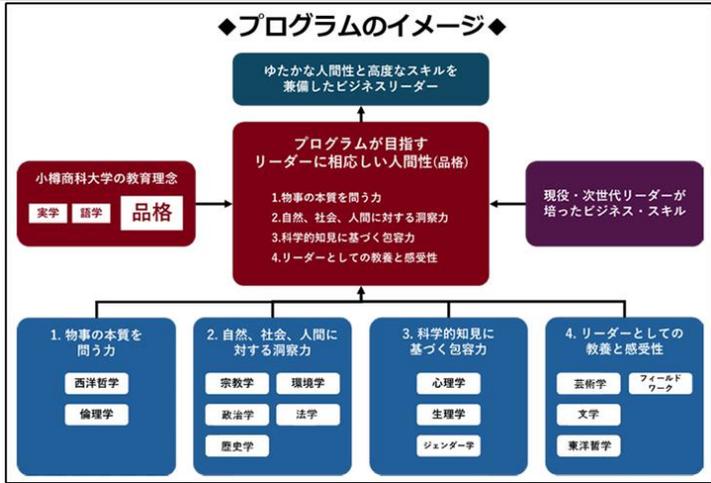
ReHの一部のプログラムは履修証明プログラムであり、修了時に交付する履修証明書により、キャリア転換や資格更新、専門性の客観的証明に活用できます。さらに2026年度には一定の基準を満たすプログラムの修了時にオープンバッジを付与できる制度が整備予定であり、プログラムの質の保証と、修了生の学修成果の可視化がさらに進む見込みです。

これらの取組により、短期的には新たな人材ネットワークが形成されます。長期的には、大学が社会の変化に応じた新しい公共性と実用性を備えた拠点として発展する上で重要な基盤となることが期待されます。

型	プログラム名 ●:履修証明【設立年】
教養型	北大道新アカデミー【2018～】
	Hokkaidoサマー・インスティテュート【2016～】
職能型	化学反応創成人材育成プログラム【2026～】
	共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム(ささプロ)【2025～】
	Hokudai Tech Academy【2025～】
	地域イノベーションプロデューサー塾(RIPS) ● ／アドバイザー塾(RIAS) ●【2024～】
	DESTINATION・マネージャー育成プログラム ●【2017～】
職業型	科学技術コミュニケーター養成プログラム(CoSTEP) ●【2005～】
	広域複合災害対応力強化プログラム(N-HRP)【2025～】
	医療AI開発者養成プログラム(CLAP)リカレントコース【2021～】
	臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム ●【2020～】
	動物医療センター卒業教育セミナー【2014～】

大学名 北海道国立大学機構

表題 社会的企業家の育成を目的とした人間性教育中心のEMBAプログラム



EMBAプログラムについて

北海道国立大学機構教育イノベーションセンター(ICE)では、これまで多様なリカレント教育を展開してきたが、近年、企業には利益の追求だけでなく、社会課題への主体的な関与が強く求められている。

こうした背景のもと、「リカレント教育エコシステム構築事業」の一環として、経営者および幹部候補生を対象とした「EMBAプログラム -Humanior-」を三ヶ月間にわたり開催した。

【フィールドワーク】



札幌刑務所



北海道畜産公社

特色ある取組

本プログラムの最大の特徴は、マネジメントやマーケティングなどの経営技術の習得を目的とせず、人間や社会への理解を深める点に置かれていることである。

高齢者や女性の生理、芸術や文化の意義、環境問題をめぐる倫理、さらには社会的弱者の立場に立った思考など、人文・社会科学的テーマを横断的に取り上げ、経営判断の基盤となる価値観そのものを問い直した。

また、刑務所、と畜場、児童養護施設でのフィールドワークを通じ、参加者は日常の経営活動からは見えにくい現実に直接向き合った。現場での体験と討論は、自らの前提や思考の枠組みを揺さぶる契機となった。終了後には満足度の高い評価が多く寄せられ、「自分の考え方を見直すきっかけになった」との声も聞かれた。

本プログラムは、経営者の人間的成熟を促す新たなリカレント教育の可能性を示している。

参考URL

教育イノベーションセンター(ICE)HP
<https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/innovation/>

EMBAプレスリリース
<https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/news/5235/>

大学名 帯広畜産大学

表題 産学官金で共創するリカレント・リスティング

高度人材共創センターを核とした社会人教育の展開

帯広畜産大学では、獣医・農畜産分野におけるリカレント・リスティング教育を展開するため、令和5年に「高度人材共創センター」を設置し、年間約600人の社会人が教育プログラムを受講している。また、産学官金連携による共同研究成果の社会実装を加速し、社会的ニーズを積極的に取り入れた人材育成とさらなる共同研究の発展をねらいとした活動を展開している。



産学官金共創のモデルケース

～農畜産プロフェッショナル経営人材育成プログラム～

「農畜産プロフェッショナル経営人材育成プログラム」は農業経営者、JA職員、資材メーカー、農業改良普及員、金融機関職員といった農業者とその支援ビジネスに携わる人材を対象として、農業経営の実践力を強化することを目指す教育プログラムで、令和5年の開講から今までに62名が受講している。

プログラム実施にあたり、農業法人経営者、会計事務所、JA、市、商工会議所、地元信金など十勝の地域経済をけん引する有識者による委員会を組織してカリキュラム作成・事業評価を行っている。

農業経営において必須となる、財務会計の基礎から経営改善の事例、労務管理や仕組化まで、実践的なグループワークを中心としたカリキュラムを、幅広い実務家教員を招聘して提供し、受講生の実践力強化と十勝農業における人的ネットワークの構築に貢献している。



グループワーク発表の様子

生産獣医療・畜産衛生技術教育

若手獣医師を対象とした「ウシ臨床獣医師育成プログラム」を履修証明プログラムとして展開し、「酪農生産衛生技術研修」では酪農生産現場に入って間もないJA職員などを対象に、現場対応力の底上げを図っている。



ウシの跛行確認を行う様子▶

食品安全技術のリスティング

「食品安全管理者育成プログラム」など食品衛生にかかわる多様なプログラムを提供し、食品衛生管理の国際標準化に対応した人材育成に取り組んでいる。受講生から、日々の業務に活かすことができるなどの感想が寄せられ、食品安全に対する知識をより深める機会となっている。



乳製品工場での内部監査研修

野生生物保全管理技術養成事業

平成29年に開始した本事業では、道路・宅地開発事業に伴う野生生物の保全対策や、農林業被害、マダニをはじめとする人獣共通感染症問題など、野生生物との共存について獣医・農畜産融合型の教育を提供している。



昆虫調査のフィールドワーク

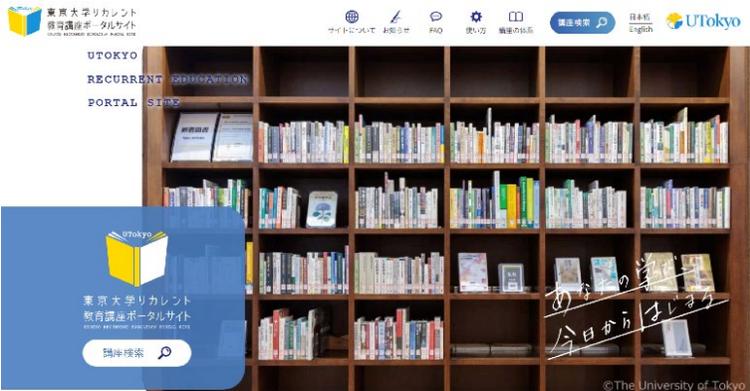
機構・三大学の連携・融合によるリカレント・リスティング

帯広畜産大学は、令和4年に、小樽商科大学、北見工業大学とともに北海道国立大学機構へ法人統合した。機構に設置された「教育イノベーションセンター」では、三大学が連携して、社会人の多様な学習形態に対応できる教育体制の充実を図っている。

令和7年には帯広市と機構の共同実施による内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業が採択された。本事業では、教育イノベーションセンター内に「社会・大学融合教育改革推進室(仮称)」を設置し、三大学と産業界の共創により、フードバリューチェーンの高度化を担う人材育成に向けた履修証明プログラムを展開する予定である。

大学名 東京大学

表題 幅広いリベラルアーツ教育に裏打ちされた総合知、専門知によるリカレント教育



東京大学におけるリカレント教育の位置づけ

東京大学は、目指すべき理念や方向性をまとめた基本方針「UTokyo Compass」の目標の一つに「大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育の実施」を掲げ、150年にわたる本学の知識の蓄積を生かし、社会課題に対する解決策を共に探る場としてリカレント教育を位置づけている。

リカレント教育講座ポータルサイトの開設

東京大学のリカレント教育の強みは、創立以来の学問的蓄積に基づく総合知と専門知を活かし、幅広いリベラルアーツ教育を提供できる点にある。学部や研究科ごとに多様なプログラムを展開しているため、講座情報を一元化し、さらにアクセスしやすいよう、2024年6月に「リカレント教育講座ポータルサイト」を開設。当サイトでは、学位プログラム等（社会人特別選抜等）、リカレント講座、教養講座など、講座終了後1年間の過去情報を含め多様な講座を掲載している（288講座掲載：2025年11月時点）。講座ジャンル等で簡単に検索でき、自分に最適なプログラムを見つけやすくすることで、社会人の多くの方の学びを後押しする。

今後の展望

多くの人々が東京大学のリカレント教育を受講できるよう、学内体制を強化することにより、社会の多様なニーズに応え、持続可能な未来を築くための知識と教養を提供し続けることを目指す。

参考URL: 東京大学リカレント教育講座ポータルサイト

<https://www.recurrent.adm.u-tokyo.ac.jp/>

大学名 お茶の水女子大学

表題 「お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾」—未来を拓く女性のための学びと交流—

徽音(きいん)塾について

お茶の水女子大学が運営する「女性リーダー育成塾：徽音塾」は、多様な分野で活躍し、未来を切り拓く女性を応援しており、国立女子大学ならではの質の高い学びと交流の機会を提供している。

お茶の水女子大学のミッション「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」という理念に基づき、社会人女性が意欲的に学ぶ場を創造し、女性が活躍する社会の実現を目指している。

徽音塾の特色

1. 女性のリーダーシップに特化した総合プログラム

女性リーダーに求められる「リーダーシップ」、「ビジネススキル」、「社会課題の解決力」を総合的に身につけられるよう、3部門(女性のエンパワーメントとリーダーシップ、ビジネス、プロフェッショナル)で構成された講座を実施している。

講師には、本学教員のほか各界で活躍する専門家を迎え、実践的な知見に基づく講義を行っている。

2. 受講者は女性のみ

女性同士で気軽に語り合い、異業種・他分野のネットワークを広げることを意図して、講座および交流会を開催している。

3. ライフスタイルに合わせた柔軟な受講

開催方式は、対面とオンラインの併用である。全国どこからでも受講可能で、1科目から選択して受講できる。ライフスタイルに合わせて安心して学べる環境を整えている。

徽音塾の特色

女性の可能性を開花させ、リーダーシップを躊躇なく発揮する

リーダーとしてのビジネススキルを養い、実践に活かす

社会課題の解決に対し研究知からアプローチする

女性のエンパワーメント
とリーダーシップ講座

- ・女性活躍
- ・リーダーシップ
- ・DE&I
- ・キャリアプラン
- ・経営戦略
- ・人的資源管理

ビジネス講座

- ・マーケティング論
- ・財務会計
- ・経営分析
- ・新規事業開発
- ・コーチング
- ・起業

プロフェッショナル講座

- ・女性の働き方
- ・女性管理職
- ・労働法
- ・ジェンダー
- ・CN/GX
- ・イノベーション

お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所

<https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/index.html>

徽音塾

<https://kiin.cf.ocha.ac.jp/>

大学名 電気通信大学

表題 社会人と学生が1年間一緒に学ぶデータサイエンスの実践プログラム

特色ある取組

電気通信大学の「データアントレプレナーフェロープログラム」はデータサイエンスの専門知識と実践的なスキルを習得しつつ、自分の力で課題を見つけ、解決できる人材(データアントレプレナー)の育成を目的とした、社会人・学生を対象とした教育プログラムである。毎週土曜の午後、オンラインで開催している。座学だけでなく実践学習の反復によって技術と課題解決能力を身につける形式となっている。特にグループワークでは、大学の学部生から60代の社会人まで多様な受講生が互いに励まし合いながら本気で学んでいる。本学教員も含めて実務経験豊富な講師が指導することも大きな特徴である。



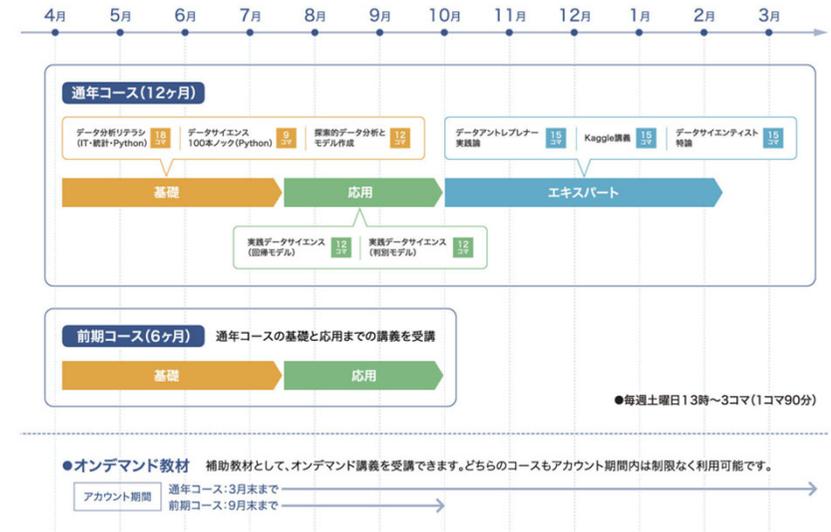
期待できる成果・評価 など

データサイエンス100本ノック(Python)やKaggleを活用した講義など、「手を動かして学ぶ」形式にこだわっている。6ヶ月コースではデータサイエンスの業務で立ち立つことができるレベル、1年間のコースではデータサイエンスのプロジェクトを中心になって推進できるレベルを目指す。受講生を派遣している企業の担当者からも「電通大の講座は手が動くようになる」と評価されており、その後の業務活用や受講後の部署異動などキャリアアップにも活用されている。2015年度から開始していて、通算で250名以上が受講している。

参考URL

・UECデータサイエンスプログラムHP
<https://www.de.uec.ac.jp/>

・受講生の声
<https://www.de.uec.ac.jp/voice/>



第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名

筑波大学

表題

女性に選ばれる企業を目指すウェルビーイング経営リカレント講座

特色ある取り組み

本リカレントプログラムは、企業におけるウェルビーイング経営を推進し、とくに“女性に選ばれる企業づくり”を実現するための実践的学びを提供することをねらいとしています。その背景には、人口減少が進む日本社会において、企業が多様な人材と共創しながら持続的に成長するためには、働きやすさ・働きがいを高める組織づくりが急務であるという課題認識があります。実施体制(右図)として、筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センターが中心となり、研究成果に基づく科学的知見と、自治体・企業との連携を活かしたフィールドを融合させて運営しています。また、リアルとオンラインを組み合わせたハイブリッド形式や、講義後の「ナイトサイエンス」による交流機会を設けることで、単なる知識提供にとどまらず、参加企業同士の協働と実践の促進を重視した特色あるプログラムとなっています。



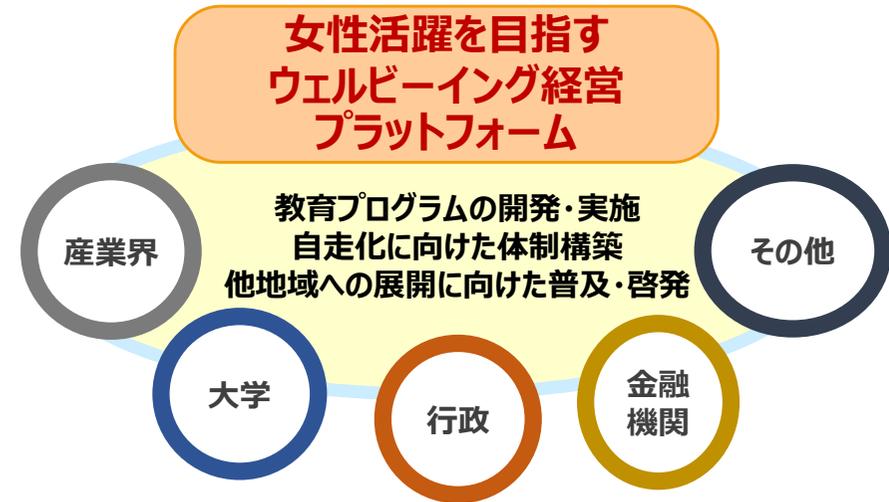
—パンフレット表紙—

女性の働く環境を想起させるイメージでデザイン

期待できる成果

本プログラムにより、企業は女性や多様な人材に選ばれる職場づくりを実践的に進めることが可能となるよう、これまでの筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センターが蓄積した科学的エビデンスに基づく内容で構成されています。特に、**ウェルビーイング経営の手法を学ぶことで、働きやすさ・働きがいの改善が体系的に行われ、従業員の定着率向上や生産性向上が期待**されます。また、経営層や管理職の意識改革が促され、心理的安全性の高い組織文化の形成にも寄与することを狙いとしています。さらに、講義後の交流機会を通して企業間ネットワークが生まれ、成功事例や課題を共有しながら相互に学び合う仕組みが構築されることで、地域全体のウェルビーイング向上にも波及する点が大きな成果として期待されます。

2025年12月19日から開催！



—実施体制図—

産学官はもちろん、「金融」がコミットする独自体制を基盤に実施

参考URL

筑波大学 スマートウエルネスシティ政策開発研究センターHP
<https://swc.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

プログラム実施要項URL

<https://swc.taiiku.tsukuba.ac.jp/info/news/20251024/>

大学名 筑波技術大学

表題 聴覚障害・視覚障害のある社会人のための情報保障・移動支援等を整備したプログラム

障害のある社会人は、研修等の学習機会を得ることや参加において制約を感じがちである。聴覚障害者・視覚障害者のための大学である本学では、保有する情報保障技術や支援体制を活用して、障害のある社会人が主体的に学べる環境を提供している。

リカレント教育プログラムの実施を通して、障害者の就労におけるさまざまな悩みの解消、障害の有無にかかわらず誰もが労働の価値を感じることができる共生社会の実現を目指している。



(画像: オンラインで実施したレジリエンス入門講座の画面)

聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターによる各種取組

聴覚障害者がよりよく働ける社会にするため、協働するきこえる人を含めた多面的なキャリアサポートに取り組んでいる。

【情報保障】手話通訳や文字通訳を配置し、聴覚障害者が視覚的に内容を理解できるようにしている。口話やチャットなど、他のコミュニケーション方法も併用している。

【プログラム内容】聴覚障害のある社会人の就労時の負担を低減するための職場環境設定の提案、大学卒業後も学び続けられる場の整備などを行っている。各種セミナーや情報交換会の開催のほか、個別相談にも対応している。聴覚障害者を雇用している/これから雇用する企業へも、障害の程度や仕事の技量に合わせた合理的配慮を行うための相談受付等を行っている。また、聴覚障害学生が自らの進路を積極的に選択できるよう、社会人の先輩と交流する場を案内し、就職に関する相談を受け付けている。

【受講者の声】「自らの職場での自分自身のコミュニケーションのつまずきについて、当事者意識を持って参加することができました」「相談したくても、(耳の面で)相談できなかったことが解消されたので満足しています」などの声がある。

参考URL: 聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターHP

<https://tsukutech-social.net/site/>



視覚障害を有する鍼灸あん摩マッサージ指圧師と理学療法士のスキル向上と働く場の共生を推進するプログラム

有資格の視覚障害者がスキルを向上させ自らの目指す働き方ができるよう、本学教員と臨床家や筑波大学病院、他大学等の50名の外部講師による90以上の授業と実習からなる履修証明プログラムを開講している。

(画像: 実習で手を添えながら手技の説明をしている様子)

【情報保障・移動支援】授業はオンデマンドで提供して、場所や時間を選ばずに学べるようにしている。タブレットでの受講者が画面のサイズや距離の調整を容易にできるなど、情報保障面での利点もある。実技は対面で行い、手に触れながら説明することで情報保障を行う。さらに、サテライト会場を設置して移動負担を軽減するとともに、補助員が最寄り駅から受講者の手引きを行うなど、視覚障害者が学びやすい環境を整備している。

【プログラム内容】鍼灸あん摩マッサージ指圧師と理学療法士が、多様化・高度化する専門領域で就労・就業して活躍するとともに、働く場の共生を推進する人材となるためのスキルを身につける学びを提供する。専門領域の最新知識や医療領域を広く学びなおす科目や、他職種との連携や様々な場面での開業事例を通じた実践的な科目を設けている。専門以外では、障害共生につながる雇用制度やコミュニケーションスキル、医療以外で活躍する当事者の体験や、生成AI等の情報スキルを学べるオンライン演習も用意している。

【受講者の声】「手引き等のサポートが受けられるため、思い切って実習に参加した」などの声があり、口コミによる評判を通じて受講者が増加している。

参考URL: 令和7年度視覚障害者対象リカレント教育プログラム募集案内

<https://www.tsukuba-tech.ac.jp/announcements/2025/11/26001799.html>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 横浜国立大学

表題 半導体人材教育リスキリングプログラム

「半導体・量子集積エレクトロニクス総合講座」を2025年度より開講

社会人のリスキリングやキャリアアップを目的とした教育プログラムを開講しています。近年急速に発展している半導体後工程技術や光電融合技術、量子コンピュータ関連技術など分野について、基礎から最先端技術までを体系的に学ぶことができます。

🎧 特別講義（全18講義/4日間）

半導体・量子集積エレクトロニクス分野の概要・基礎を集中的に学ぶことができます。初学者の方にもわかりやすく解説します。

🎓 大学院講義（1年間）

本学先進実践学環が提供する集積エレクトロニクス分野の大学院講義を選択して履修することができます。大学院レベルの高度な知識を学ぶことができます。

🏢 研究室での実習（3ヶ月）

国立大学ならではの最先端実験設備を使用しての実習を受けることができます。

🗨️ 集積エレクトロニクスシンポジウム(公開講座)（年1回）

集積エレクトロニクス分野の一流研究者・技術者による公開講座を開催しています。

本学の半導体・量子集積エレクトロニクス分野の研究・教育の取り組み

🏢 半導体・量子集積エレクトロニクス研究センター(SQIE研究センター)

最先端のエレクトロニクス技術の研究・開発に取り組んでいます。半導体ヘテロ集積ラボ、量子インターネットラボなど5つのラボで構成されています。

YNU 先進実践学環(大学院修士課程)

分野を超えた文理融合の教育を実施するユニークな大学院です。研究テーマ「集積エレクトロニクスと社会展開」を新設し、本分野をリードする人材の育成しています。



半導体・量子集積エレクトロニクス総合講座の構成



特別講義(集中講義)の様子

大学名 新潟大学

表題 共同教育講座によるリカレント教育の推進 ～建設業に特化した人材育成支援～

◆特色ある取組

新潟大学では、地域から強い要望が寄せられている地域人材育成機能を担うため、令和5年4月1日付で社会連携推進機構内に地域人材育成部門を設置しました。これにより、各産業分野の企業群と連携し、専門人材育成のニーズに応えるオンデマンド型リカレント教育を組織的に実施するためのシステムを整備しました。

この取り組みの一環として、令和5年度より「地域社会インフラ整備の担い手育成リスクプログラム」を開講しています。開講の背景には、自然災害の増加や水道管・道路など社会インフラの老朽化により業務量が増加する一方、技術者の高齢化や就業者数の減少により人材不足が顕在化しているという、建設業界の深刻な現状があります。個々の企業だけでは十分な人材育成が難しく、業界全体で若手技術者の専門性向上や異分野出身者の再教育が急務となっています。

そこで、就業者へのリスキリングにより、建設・土木分野の基礎知識から応用的な知識までの習得を目指すべく、県内建設事業者との共同教育講座としてプログラムの開発を行いました。

本プログラムは、必修の「建設基礎技術講座」と選択可能な「建設応用技術講座」に大別されており、社会人が時間の無い中でも自分のペースで学習できるよう、必修講座はオンデマンド形式としている他、選択講座では座学だけでなくフィールド実習を行う科目も開設する等、大学をはじめ、自治体、民間企業等が連携し、より実践的な内容を学ぶことができるような構成としています。

また、令和7年度より本プログラムを履修証明プログラムとしたことに加え、文部科学省による職業実践力育成プログラム(BP)の認定も受けており、ソフト面とハード面の両面からプログラムの魅力向上に取り組んでいます。

◆期待できる成果・評価

現在、建設業の若手社員に加え、異業種からの転職者や文系から建設業界へ就職した新卒社員、土木系部署に配属されている自治体職員の方が受講しており、講座修了後のアンケートでは、講座内容に満足している声が寄せられています。

また、受講者だけでなく所属企業の幹部職員からもニーズ収集を行い、本プログラムを企業の新人研修として活用いただく等、地域建設業の人材育成へ貢献しています。

◆今後の展望

これまでリカレント教育に取り組んできたノウハウを活かし、令和7年度より「新潟県 外国人技術者・企業変革リーダーリスクプラットフォーム」を設立しました。

本プラットフォームでは、「ベトナム人建設技術者リーダー・リスクプログラム」を新たに開設し、外国人技術者が県内建設業へ就労する際、日本特有の企業文化や建設技術等をリスキリングすることで、将来のリーダー候補としてスムーズに人材定着することを支援します。

今後も産学官の連携を深め、地域課題の解決に資する人材育成支援を行っていきます。



事業体制図



選択講座「コンクリート劣化診断」現場実習の様子

◆参考URL

- ・新潟大学社会連携推進機構HP
<https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/>
- ・新潟大学 地域社会インフラ整備の担い手育成リスクプログラムHP
<https://www.reskill.ircp.niigata-u.ac.jp/>
- ・新潟県外国人技術者・企業変革リーダーリスクプラットフォームHP
<https://www.niigata-reskill-platform.jp/>

大学名 長岡技術科学大学

表題 誰でも、いつでも、どこでも学べるリカレント教育サイト「まなびスクエア」

特色ある取組

- 長岡技術科学大学は、教育研究活動の成果を社会に広く還元し、持続可能な地域の未来創生に寄与するため、新しい学びの場「まなびスクエア」を令和6年8月に開設した。試行運用期間中の登録者数は51名だったが、令和8年1月には420名を超えるまでに増加し、小学生から70代まで幅広い世代が利用している。
- まなびスクエアは「知る」「学ぶ」「探求する」の三段階（図1）で構成されている。
 - ・『知る』…本学の教育研究活動をわかりやすく紹介し、学びの入口を提供している。
 - ・『学ぶ』…本講座は、**ビジネス（B）・テクノロジー（T）・クリエイティブ（C）**を横断的に関連付けたグランドデザイン（図2）に基づいて構成されている。これにより受講者は、自分の関心を**B・T・C**のいずれか一分野に限定するのではなく、複数の領域を組み合わせた**複合的な視点から学びを始める**ことができる。工学系単科大学でありながら、多様な分野を結び付けた領域横断型のオンデマンド講座を提供することで、業務等における**課題解決や基礎から応用までを分野を超えて考える視点を養う**ことにつながる。
 - ・**オンデマンド形式で無料**（一部有料予定）の講座を展開している。1科目を複数コマに分割して配信し、**社会人でも短時間で継続しやすい仕組み**を整えている。さらに、講座は本学教員が研究成果などを基に独自で制作し、受講後に課題やアンケートの回答など条件を満たした受講者には、**受講修了証を発行**する仕組みを整えている。マイページ（図3）から修了証をダウンロードでき、成果を企業・組織へ提示できる。
 - ・『探求する』…本学への社会人入学、オーダーメイド工学教育プログラムなどに関する情報を紹介し、オンデマンド学習から社会人入学へと進む道筋を示している。
- 誰でも、いつでも、どこでも講座を学べるオンデマンド形式で公開することで、地域社会に開かれた大学としてリカレント教育を推進する取り組みを実現している。

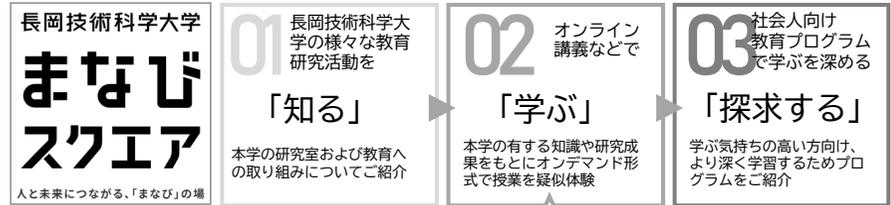


図1 まなびスクエアは3段階で構成

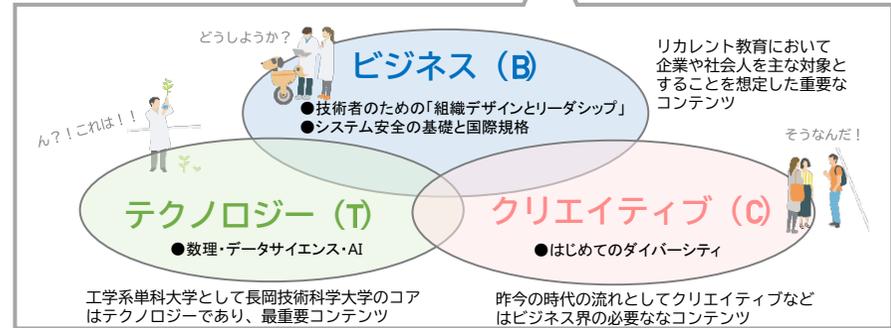


図2 「学ぶ」グランドデザイン

期待できる成果・評価 など

- 数理・データサイエンス・AI講座の受講者は40代から50代が中心で、受講者アンケートでも要望が多く、社会人が必要とする**基盤的な知識を提供**することができている。ダイバーシティ講座では60代の受講者が多く、**組織の管理者としての視点から講座に大きな期待が寄せられており、管理的立場に必要な判断力や視野の拡大**につながっている。受講者の業種は製造業や電気関係などものづくり分野にとどまらず、管理・事務職や大学関係者など幅広く、多様な立場の受講者が自らの業務等に結びつけた「気づき」を得て、**実務への応用を促す「きっかけ」を与えている**。
- 積極的な広報活動**（写真1）の結果、令和8年1月までにまなびスクエアで開講した**21科目の受講者数は累計で564名**となり、本学が有するリカレント教育用コンテンツを社会人を中心に広く提供できた。
- 令和6年度に期間限定でシステム安全の基礎と国際規格講座（無料）を開講し、延べ400名以上が受講して大きな反響を呼んだ。この反響を受けて、講義内容を充実させ講義時間を増やした有料講座を令和8年1月から開講しており、今後も**リカレント・リスキリング教育を継続的に提供**する。



図3 まなびスクエアのマイページ



写真1 イベントで紹介

参考URL <https://manabi-square.nagaokaut.ac.jp/>

長岡技術科学大学
まなびスクエア

大学名 山梨大学

表題 履修証明プログラムによる特別支援教育担当教員の養成および現職教育の場の提供

山梨大学では、特別支援教育特別専攻科を発展的に解消し、令和8年度から、特別支援学校教諭一種免許状取得コース(Aコース)の機能を履修証明プログラムに移行する。

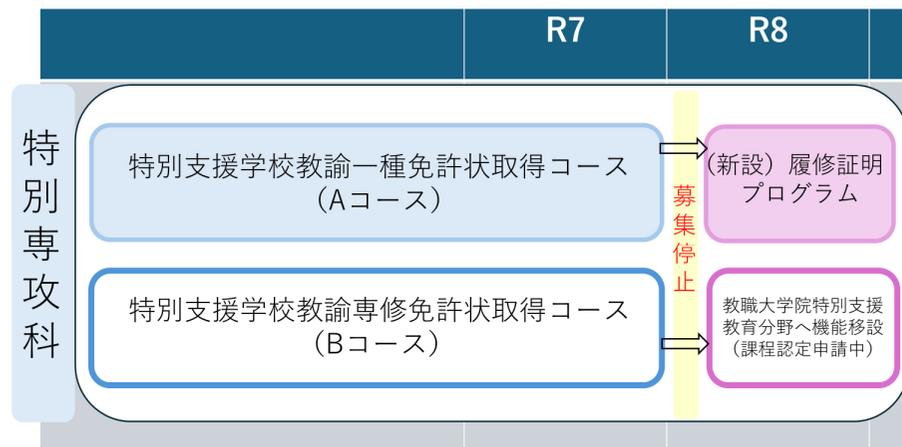
昨今、通常の学級にも障害のある子供は多数在籍しており、特別支援学校で勤務するためだけでなく、小・中学校で特別支援学級を担当したり、通常学級で特別な教育的支援を行うため、特別支援教育に関する理解を深めたいという現場のニーズが高まりつつある。本プログラムによって、そのようなニーズに応えること、また、今後、学校現場で働きたいという方の学びの場になることを期待している。

本プログラムでは、いずれかの普通免許状(一種以上)を所有する方が受講することで、1年間で特別支援学校教諭一種免許状(知的障害・肢体不自由・病弱)の所要資格を満たすことができる。受講生は、特別支援教育に関する講義と実習を26単位分履修する。

参考URL

・教育学部HP

<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/department/6803/>



大学名 信州大学

第77号 特集テーマ
「リカレント・リスキリング教育」

表題 地域の未来を拓く「体感型サステナブルリゾート」の創造へ
～信州大学×東急リゾート&ステイ 産学連携による「環境マインド」育成の挑戦～

東急リゾート&ステイ株式会社との共創によるリスキリング教育短期プログラム(※)「環境マインド育成プログラム」は、今年で2期目を迎えました。

※自治体や企業・各種団体のニーズに合わせ、本学の教員や外部有識者が講義を行うプログラム(企業研修)

プログラム概要

1. 目的: 自社の環境経営方針の浸透と現場を変える「環境マインド」の育成

「環境マインド育成プログラム」は、若手・中堅社員(入社8年目程度まで)を対象に、①環境・地域共生を軸とした知識への理解・意識を高め、②自社施設をフィールドとした顧客体験価値「体感型サステナブルリゾート」について主体的に考え、企画・マネジメントができる人材の育成を目的としています。

昨今の社会経済、地域社会の課題を捉え、ホテル・観光業界として自社施設が地域の様々な主体と共に創るこれからの「新たな価値」とは何か、受講生は企業価値を顧客に対してどのような形で提供していきたいか、チームのメンバーと共に未来を描き、切り拓いていく「意識変容」にも繋がるプログラム構成が特徴です。

2. 実施内容: プログラム構築とマイルストーン設定

今期のプログラムは、2025年6月から10月まで約5ヶ月間の実施期間において、大きく2つのフェーズに分けられます。

対面講義とグループワークを掛け合わせた研修を7月(蓼科)と9月(斑尾)の計2回実施。対象受講生は本社、蓼科、斑尾の各所属から構成されており、まず自社施設を知ることから、さらにキーとなる「サステナブルリゾート」への理解に必要な基礎知識を信州大学の教員による講義+グループワークに加えて、実際のフィールド(斑尾および蓼科リゾート)を活用した実地視察、さらに本学教員によるサポート、フォローアップ(後日)により、プランの検討へ導く流れとしています。

- アカデミア×現場(インプットとアウトプットの循環)
- 環境課題を自分事として捉え、具体的な事業企画(アクションプラン)として各チームで練り上げ、最終発表会にて役員へのプレゼンテーションを実施

3. 成果と展望: 大学が果たす役割

～地域活性における、教育シーズと企業を繋ぐことの重要性～

参加者からは、「環境知識だけではなく、予算や実現性を考慮した企画・マネジメント力が身についた」「具体的にスケジュールや予算案を考え、実現させるためにみんなで考えた時間はとても有意義だった」「チームビルディングの向上に繋がった」といった声が寄せられており、本取組は、国立大学の「知」が企業の現場の変化や持続可能な観光地づくりに貢献する、産学連携リスキリングのモデルケースとしても期待されます。

今後も、プログラムの改善を図りながら、地域社会とホテル・観光産業の持続可能な発展に資する「環境マインド」をもったリーダーを輩出していきます。

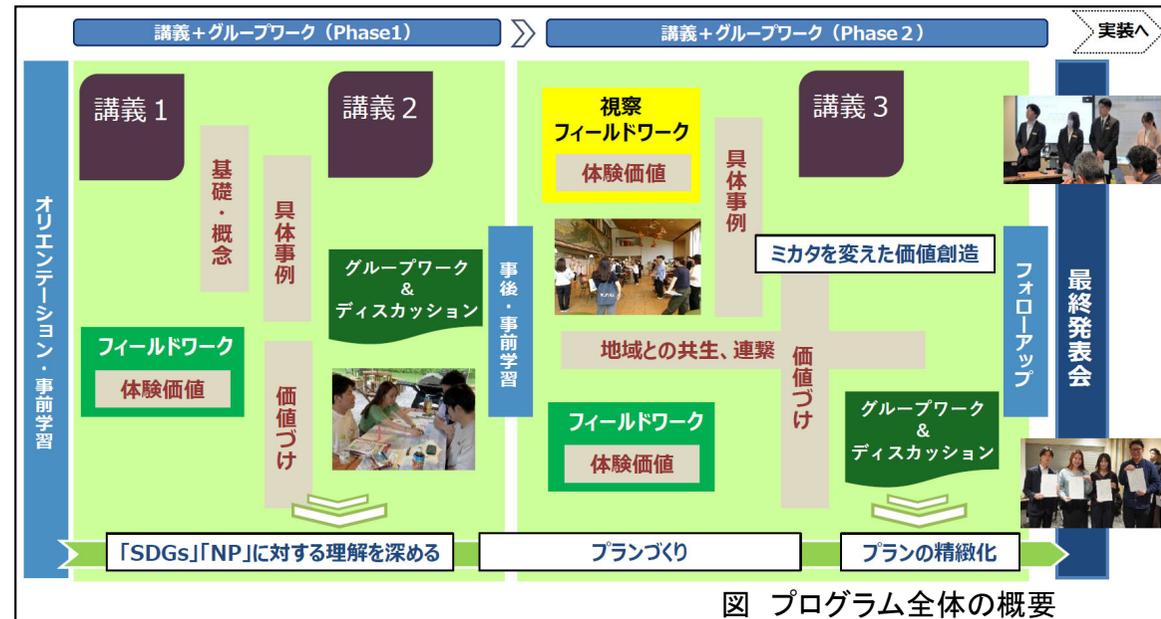


図 プログラム全体の概要

■全体の満足度 4.64
 ■学びの目標の達成度 4.10 (いずれも5段階評価による自己評価) ※受講後アンケートより

参考URL 国立大学法人信州大学 リカレント学習プログラム推進本部

- ◆ホームページ <https://www.shinshu-u.ac.jp/education/recurrent/>
- ◆Facebookページ https://www.facebook.com/profile.php?id=61570216477605&locale=ja_JP

大学名 富山大学

表題 地域の持続的発展のため大学と産業界が「地域総がかり」で展開する技術者人材育成プログラム

富山県内産業界の更なる発展を目指すため、富山大学では、平成23年から、大学教員と企業人による「地域総がかり」の企業中核人材養成コース「次世代スーパーエンジニア養成コース」を開講しています。

これまで**3,598名**の受講生を輩出するなど、富山県内の基幹産業に従事する技術者に対するリスキリング教育の中心となっています。

このコースでは、先端研究に携わる大学教員の基盤科学技術だけでなく、地域を中心とした民間企業のベテラン技術者による企業間の壁を越えた実践技術の集大成を有機的に結びつけることで、「専門分野の深み」を学ぶことにとどまらず「産業界で必要とされる幅広い知識」、「産業界やマーケットの動きに柔軟に対応できる能力」を併せ持つ**スーパーエンジニア（将来の企業の技術を統括するリーダー・世界に通用する専門技術者）**の養成を目指しています。

これまで延べ2,520名の講師による講義を行っていますが、その内約7割（**1,673名**）は民間企業等の講師陣による実学を中心とした講義や競合企業見学を行っており、本事業の強みとなっています。

【科目交流会】



【企業見学】



https://sanren.ctg.u-toyama.ac.jp/recurrent_education/



アルミ加工や医薬工学等富山県内の基幹産業をターゲットに、**大学と産業界が一体的に技術人材を育成**（平成23年～）

point 学内の研究者だけでなく、多くの民間企業等から講師を招き実学を中心とした講義を「地域総がかり」で実施

講師 産業界 官公庁 **1,673名** 富山大学 **847名**

※講師数は平成23年から令和6年度までの延べ数

知識を持つ力

専門性
経験
ノウハウ

意識する力

使命感
モチベーション
企画・判断

行動する力

マネジメント
積極性
挑戦

受講生 平成23年から令和6年度にかけて **3,598名** の受講生を輩出（延べ数）
令和6年度は**64**社から参加

大学院
へ進学



コース内の各科目が大学院科目として開講

単位認定を実施、
大学院への社会人入学を今後更に伸張する

大学名 金沢大学

表題 能登の創造的復興を担う次世代のリーダーを育成～能登里山里海SDGsマイスタープログラム～

特色ある取組

能登里山里海SDGsマイスタープログラムは、能登の自然や文化資源を生かし、能登の再活性化を担うリーダー（マイスター）を育成するプログラムです。深刻な過疎高齢化が進む奥能登地域の自治体（珠洲市・輪島市・穴水町・能登町）と連携し、マイスターの育成を約19年にわたり実施しています。

自治体職員や自営業者など、多様な経歴をもった受講生が全国から集まり、学内外の講師陣による講義やフィールド実習を行います。プログラムを通じて、能登里山里海の特徴、産業やなりわいを学び、SDGsの概念を生かしながら自然との共生や災害対策を実践できる人材を育成します。平成19年度に前身となるプログラムが開始されてから、これまでの修了者（マイスター）は**262名**に上り、全国各地において多様な分野で活躍しています。

令和6年能登半島地震の発生を契機に、さらに「防災・減災」等の地域課題をカリキュラムに組み込み、奥能登地域が本来有する「経済的・社会的・文化的価値」を再発見し、活用できる「創造的復興」人材の育成に努めています。



平成23年に世界農業遺産GIAHSに認定された「能登の里山里海」を現地で学ぶ



期待できる成果・評価

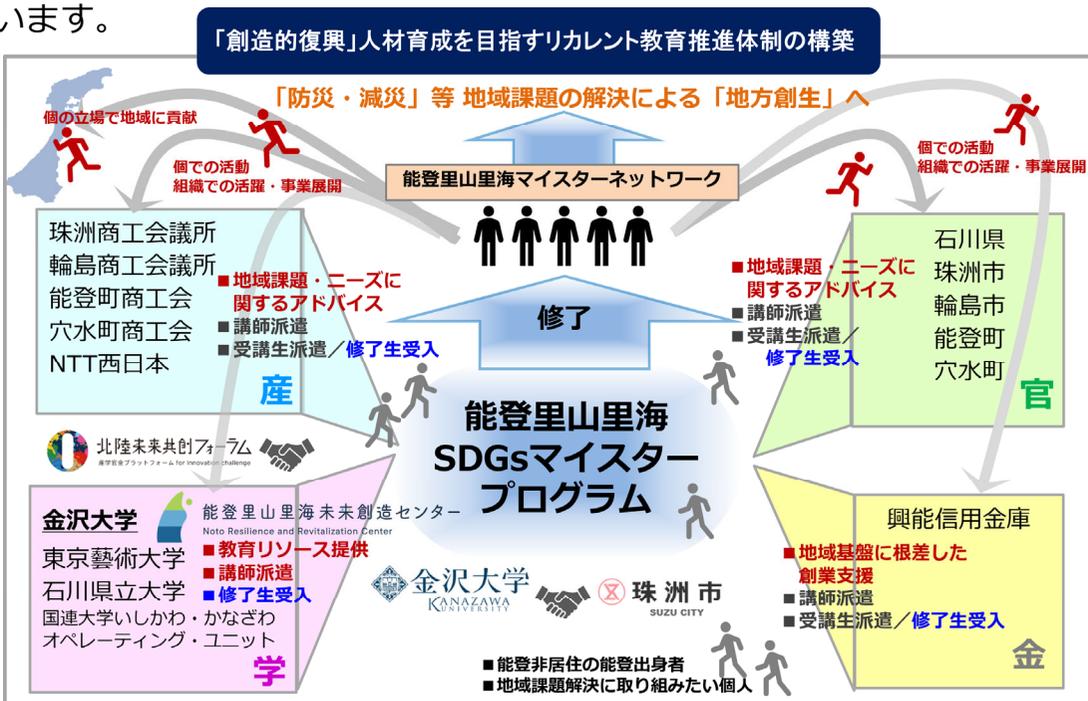
本プログラムの修了者は令和2年から「NPO法人 能登里山里海マイスターネットワーク」を運営しています。持続可能な里山里海の構築を目指し、能登地域の復旧・復興にも活動を展開しています。

本プログラムは令和6年6月に策定された「石川県創造的復興プラン」でも、復興に向けた取組の一つに位置づけられています。今年度の受講生42名は、本学が珠洲市で実施している自立分散型コミュニティプラントの実証実験プロジェクトにも参加しています。

参画機関も広がりを見せています。従来の「官」と「学」に加え、令和7年度より「産」と「金」が新たに加わりました。また、本プログラムは珠洲市の企業版ふるさと納税の寄附対象事業に指定され、運営資金の支援を受けており、さらなる発展が期待されます。

参考URL

- 能登里山里海SDGsマイスタープログラム <https://meister.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

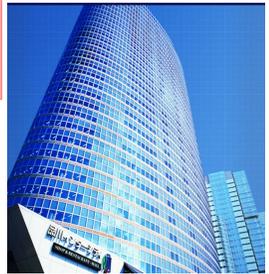


第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

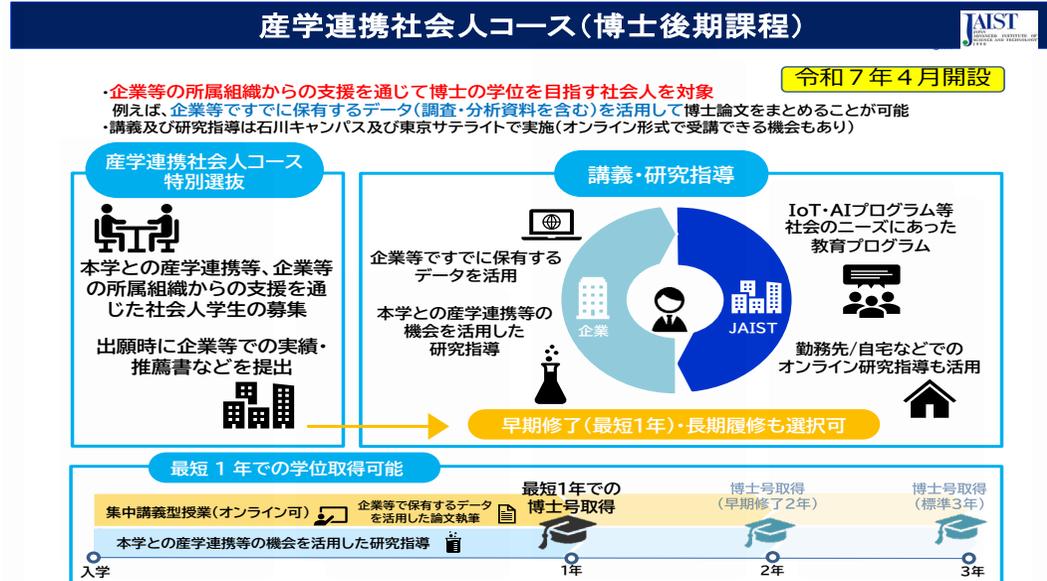
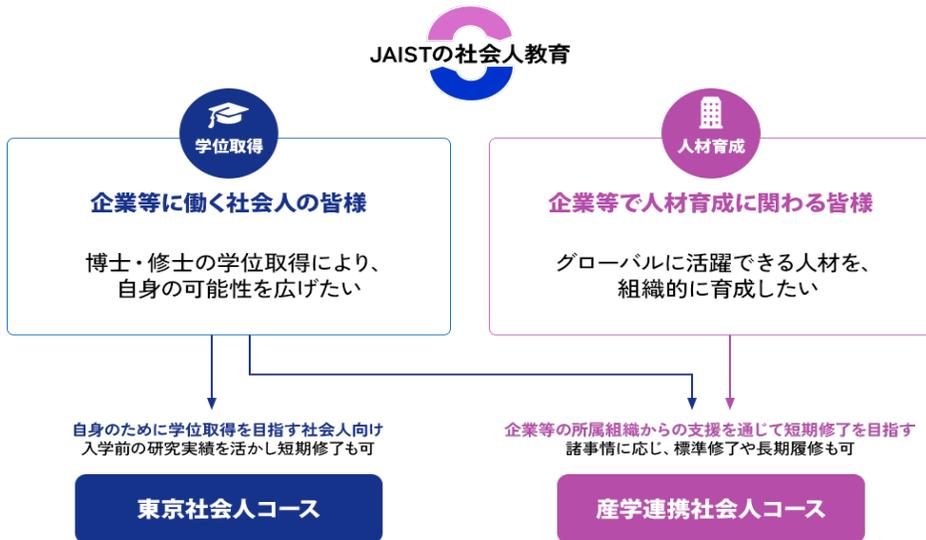
大学名 北陸先端科学技術大学院大学

表題 北陸先端科学技術大学院大学の社会人教育について

本学は石川キャンパス(石川県能美市)以外に社会人のためのリカレント教育の場として東京に**東京サテライト**を設けている。東京サテライトには、働きながら修士や博士の学位を目指す社会人学生を対象として**東京社会人コース**に加えて、新たに**産学連携社会人コース**を令和7年4月に開設した。



産学連携社会人コースは、本学との産学連携研究等を通じて博士の学位を目指す**企業等の在籍者を対象**として開設された。博士後期課程向けで、**知識科学・情報科学・マテリアルサイエンス**の博士学位を取得することが可能。講義及び研究指導は石川キャンパス及び東京サテライトで実施し、オンライン形式で受講できる機会もある。産学連携社会人コースでは、これまでの研究業績や、所属機関と本学との産学連携研究を通じた研究業績等を踏まえて、**最短1年での博士学位の取得も可能**となる。



第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 静岡大学

表題 高度デジタル人材の育成を目指し、リカレント教育に力を注ぐ

特色ある取組

総合科学技術研究科情報学専攻(修士課程)では「社会人入試」及び「リカレント教育入試(社会人特別選抜)」を設けている。

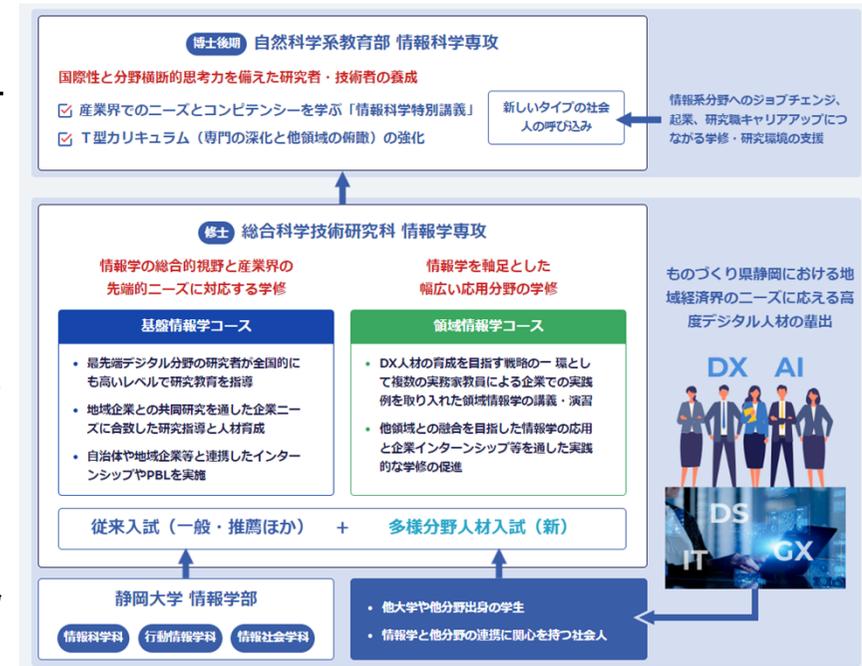
また、「令和5年度大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)」に採択され、定員の増員に加え、新たに領域情報学コースを設置した。

基盤情報学コースでは情報学の中核を体系的に学ぶ総合的視野の獲得と産業界の先端的ニーズに対応する最先端の技術・知識の獲得を重視し、領域情報学コースでは他領域と情報学の融合及び実務家による実践的授業を重視することで、高度な情報専門人材を育成する。

自然科学系教育部情報科学専攻(博士後期課程)についても、入学定員を増員、専門の深化と他領域の俯瞰を促進するT型カリキュラムの強化により、国際性と分野横断的思考力を備えた研究者・技術者の養成を目指す。

期待できる成果

社会人の潜在ニーズを捉え、キャリアアップに挑戦する多彩な社会人に対する幅広い分野の実践的教育を行っている。AI技術など産業界のニーズを踏まえ、ものづくり県静岡における地域経済界のニーズに応える高度デジタル人材を輩出することが期待できる。



参考URL

・静岡大学 情報学部 大学院HP
<https://www.inf.shizuoka.ac.jp/graduate/>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 浜松医科大学

表題 自治体、医療機関等と協働し、静岡県内の医師少数地域等で活躍する医師を養成する

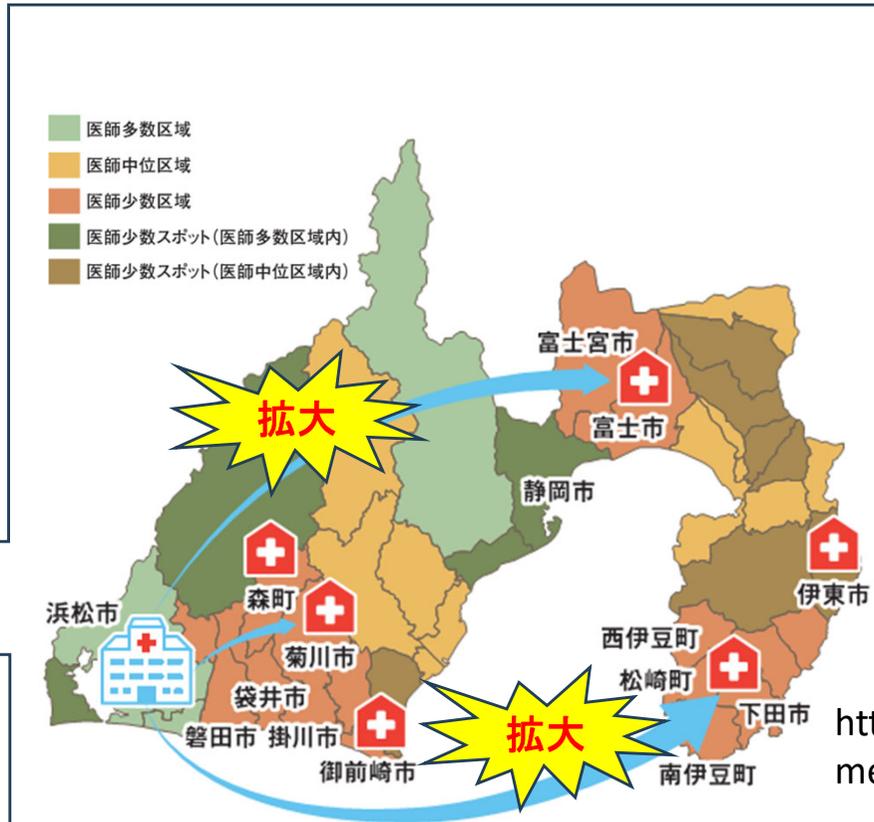
特色ある取組

令和7年4月に自治体、医療機関等と協働し、静岡県内の医師少数地域等で活躍する医師を養成することを目的として「地域診療教育システム開発センター」が設置されました。学生教育、初期研修・専門医研修プログラム等を通して、総合診療医や総合診療に深い理解を持つ専門医の養成と医師少数地域等への定着を促進し、医師少数地域等における持続可能な医療体制の構築及び医療の充実に貢献していきます。

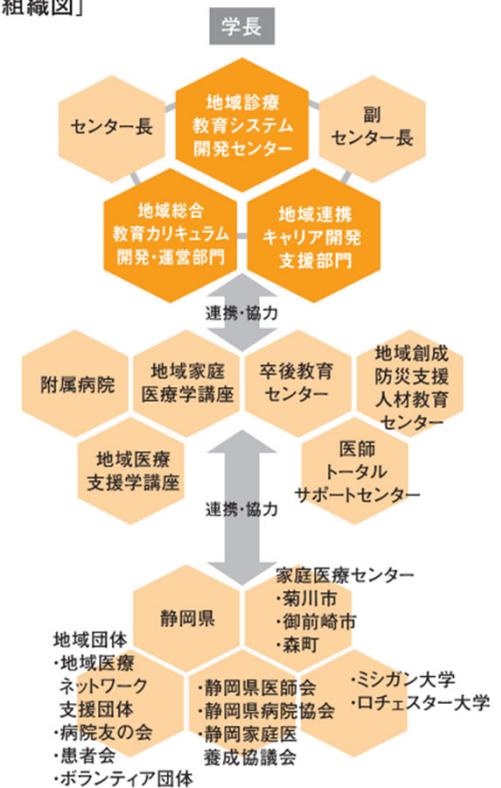
- ・中山間地域・沿岸部・地方都市へ実習地域を拡大し、卒前教育の段階から地域医療の現場を早期かつ十分な期間経験でき、地域医療の学生教育及びリカレント教育を充実させる体制を構築
- ・医師少数区域等に総合診療医を含めた各科指導医を派遣し、医師少数区域等にて専門医を育成できるシステムを構築

期待できる効果

将来的に医師少数区域等において活躍する「総合的な診療能力をもつ医師」をこれまで以上に輩出



[組織図]



参考URL 地域診療教育システム開発センター

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mechanism-fig/rme-sdc/index.html>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 三重大学

表題 大学の知を社会へ還元するリカレント教育の推進

三重大学のリカレント教育の特色

①学部教育・大学院教育で培った体系的な教育(総合大学:理系・文系)
 ー 基礎的な内容 ~ 応用・最先端まで幅広く学習可能 ー
 > 学部・大学院の講義を受講 (流体力学、会社法、予防接種 etc)

> 政策提案力向上プログラム: 自治体向けに、学部の公共政策コースをカスタマイズ
 > 医療経営人材育成プログラム: 医療経営士2級・3級資格認定試験の勉強会を実施、高い合格率

②演習・グループワークによる深い学び・言語化

・DX人材育成プログラム(レディーメイドプログラム、R4~)
 > 企業等のDX・デジタル化に必要な基礎的な知識とスキルに加え、プロジェクトマネジメント能力を併せ持った人材を養成する目的でプログラムを構築
 > 企業、大学院地域イノベーション学研究科および当センターが連携し、座学、実際の企業データを用いた演習・グループワークを実施
 > 成果発表会では、実社会データとBIツール等を用いて議論・検討した結果を基に、課題を見出すとともにその解決策を提案

DX人材育成プログラム講座内容 約20回の講義を含め約45時間の多様な教育内容			
教育内容	講座名	講座時間・回数	受講形態
プロジェクトマネジメント	地域イノベーション学基礎講座 プロジェクトマネジメント基礎講座 知的財産マネジメント基礎講座	90分×5回	オンデマンド
	総合討論	90分×1回	対面/オンライン
データスキル	DX経営講座 データサイエンス基礎講座 データエンジニアリング基礎講座 データ活用事例講座	90分×10回	オンライン/オンデマンド
	現地研修 集合研修 成果発表会	各1日 90分×1回 60分×3回	対面/オンライン
グループワーク	実践演習	※この他、各自の課題に合わせた時間があります	オンライン

※上記の他、開講式・オリエンテーション・終了式(対面/オンライン)を実施します ※一部プログラム内容・日程は変更の可能性があります ※対面/オンラインは、平日昼間開講にて実施します

③プロジェクトマネジメント、課題発見・課題解決型
 ~企業等における「当初のニーズ」と「真のニーズ」(オーダーメイド)

・課題抽出力向上プログラム(オーダーメイドプログラム、R6~)
 > ある企業が、AIを活用したデータ分析を進める中で、課題を抽出する能力の重要性を認識し、三重大学と連携して課題抽出力向上のための講座を開発
 > この講座を通じて、「正しい問い」に焦点を当て、表面的な問題だけでなく、課題の本質を見抜き、その背景にある根本的な原因を特定する能力を養うことを目指した
 > 講座は、講義とグループワークを組み合わせた実践的な内容で、若手社員を中心に10名が受講



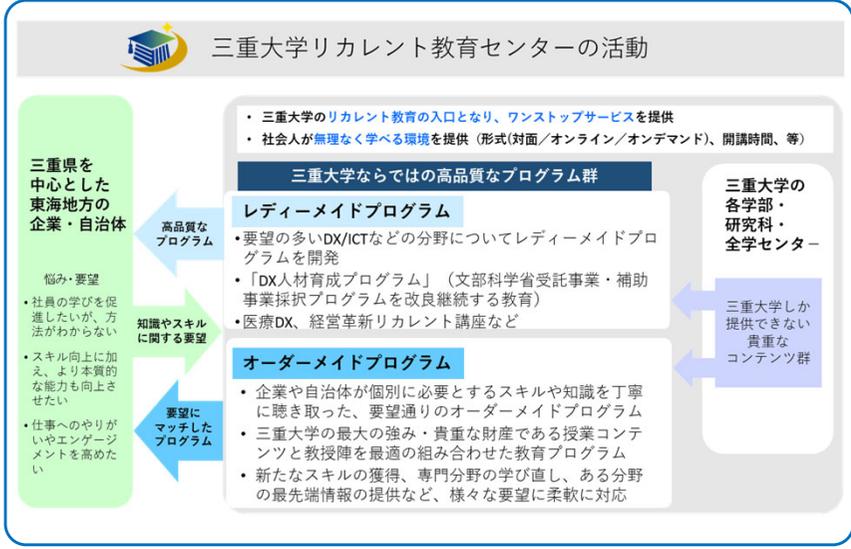
グループワークの様子(課題抽出力向上プログラム)

修了生コミュニティ(アルムナイ)の整備

> 令和4年度からオンラインの修了生コミュニティの場を整備し、希望者が活動を開始(39名が参加中)
 > 「DX人材育成プログラム」修了者を対象に令和7年1月31日に初めて対面での会合を開催し、7名が参加
 > 令和7年8月29日に第二回会合を開催、23名が参加
 リカレント教育プログラムでの学びが企業における自身の活動にどのように活かしているかを互いに発表しあった
 > 今後は対象者を拡大しながら、受講生間の交流のため、年2回程度、定期的に開催する予定



第二回修了生コミュニティ(R7.8.29)



リカレント教育プラットフォームみえ(産学官金連携協議会)

> 三重県内の13高等教育機関と連携し、県内におけるリカレント教育を推進しており、共同プログラム・各機関独自プログラムを各種開発・提供している

期待できる成果

社会的インパクトの創出

> A: 受講生個人の行動変容 から始まり、B: 受講生の属する組織の行動変容
 C: 受講生の属する組織が社会に与える影響 へと波及する社会的インパクトを創出していくことが期待される
 > 実際に修了生コミュニティ等で具体的な成果が報告されてきている(A: 社内での分析ツール活用、昇進、B: DX教育体制構築、社内勉強会開催、C: DX支援サービスの事業化など)

参考URL

三重大学リカレント教育センター <https://recurrent.mie-u.ac.jp/>

リカレント教育プラットフォームみえ <https://conso-mie.jp/recurrent/>

大学名 滋賀大学

表題 滋賀リカレント教育コアリジョンの構築を通じた人材育成の推進による地域経済の活性化

特色ある取組

文化資産が豊富で製造業が盛んな滋賀県の地域的特徴を活かし、企業や地域における多様な人材のリスキリングを支援することで地域の活性化を目指す、産学官金連携の教育プラットフォーム「滋賀リカレント教育コアリジョン（SREC）」を令和7年7月に立ち上げました。（文部科学省「令和6年度補正予算リカレント教育エコシステム構築支援事業」採択）

滋賀大学の「データサイエンスにおける高度人材育成」と滋賀県立大学の「地域課題解決のためのフィールドワーク型教育」という強みを活かして、地域のニーズに即した「DX人材育成（地域の底上げと高度人材育成）・経営戦略・地域課題解決」という3つの教育プログラムを展開しています。本プログラムでは、コーディネーターが伴走することで、既存事業の効率化・新規事業の開拓・他の企業との協業などを支援し、人材育成を通じた地域経済の活性化に貢献します。

また、受講しやすい環境を整備するため、週末の開講や講義動画の活用、TAを活用した少人数かつ個別ニーズ対応講義方法を導入するほか、県内の地理的特徴（人口、アクセス、企業集積）を考慮して彦根と大津（滋賀大学大津サテライトプラザ）の2箇所で開催しています。



期待できる効果

- ✓ 地域経済への効果
- ✓ 経営人材の高度化
- ✓ 産学官金連携によるネットワークの形成
- ✓ 地域社会への波及効果

参考URL

- ・ 滋賀大学HP <https://www.shiga-u.ac.jp/>
- ・ 産学公連携推進機構HP <https://shiga-u.ac.jp/icr/>
- ・ 滋賀リカレント教育コアリジョンHP <https://shiga-u.ac.jp/srec/>

大学名 大阪大学

● ナノ理工学人材育成プログラムを先駆けに多分野のリカレント教育を展開

大阪大学では、多様な分野の社会人高度再教育プログラムを展開し、職業技能と学術的探究を融合した教育を実施、発展させています。その中でもナノ理工学人材育成プログラムは、大阪大学の先駆けとなる取組で、2004年度の開始以来、約1,800名がプログラムを履修し、「大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム」と連携することで、実社会に適應する高い教育基盤と産学官連携型の人材開発へ発展し続けています。

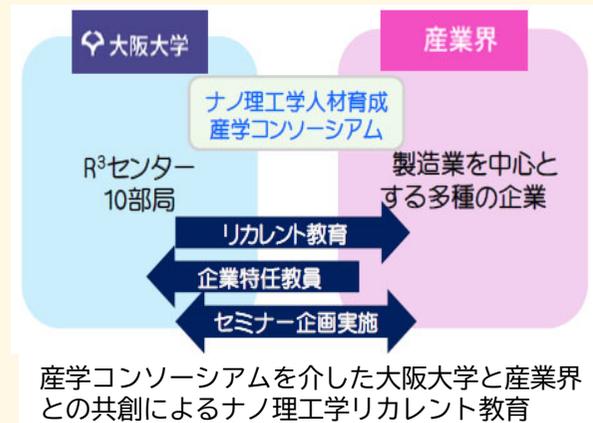
大阪大学における社会人向け学びのプログラム <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/re-education>

● 社会と企業が評価するナノ理工人材育成の実績

ナノサイエンス・ナノテクノロジー教育プログラムでは、2004年度の開始から多部署横断型の高度学際教育を提供、国際連携活動や社会人向けリスキリング教育を柱に人材育成を包括的に拡充し、2022年には活動の中心を「エマージングサイエンスデザインR³センター（R³：Recurrent, Reskilling and Research Retraining）」へ進化させ持続可能な未来を見据えた新たな挑戦を継続しています。

本プログラムは製造業を中心とした社会人のキャリアアップを支援し、学内外の組織や産業界との共同によるナノ理工学教育を夜間オンライン講義や短期集中スクーリング形式で提供しており、「大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム」と連携することで、実社会に適應する高い教育基盤と産学官連携型の人材開発へ発展し、実践力のある理工系人材育成に貢献しています。

本プログラムの受講生からは、「初心者であっても基礎から学び実践力を高め、難解なデータの考察能力も向上した」との声が寄せられ、受講生が所属する企業からは「最先端技術や幅広い学術知識の修得により、社内人材育成プログラムとして活用されている」との評価を受けています。また、プログラム修了者は学んだ単位を活用し、社会人博士後期課程へ進学するなど、高度博士人材へのキャリアアップへの道筋も示されており、職業技能と学術的探求を融合した教育は企業内でも認知され、広く活用されている成果が確立されています。



ナノ理工学リカレント教育

コース

1. マテリアル・デバイスデザイン
2. エレクトロニクス材料・デバイス
3. 機能化学・バイオ
4. ナノ構造・機能計測解析学

講義内容

- 夜間講義（1回/週、3時間、34回/年）
- 最先端機器を用いた実習（3～5日）
- 社会受容、ロードマップ作成 講義と演習（土曜集中 8回/年）
- 先端動向のセミナー（5回/年）

エマージングサイエンスデザインR³センター <https://www.insd.osaka-u.ac.jp/>



透過型電顕を用いた実習風景



第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 奈良国立大学機構(奈良教育大学・奈良女子大学)

表題 『なら産地学官連携プラットフォーム』の枠組みを活かしたリカレント教育事業の展開

特色ある取組

本リカレント教育事業は、法人統合を契機に、奈良県内の産業界、地域・住民、高等教育機関、地方公共団体等が連携・協働して発足させた、「人材育成」「産業振興」「地域創生」を目指す『**なら産地学官連携プラットフォーム**』を基盤としている点に特色がある。

本事業は、令和5年度文部科学省公募事業に採択され、**産地学官金連携**により**企業の人材育成ニーズ**を踏まえ、**地域経済の活性化、経営改革等に寄与する人材育成**に資するリカレント教育体制を構築し、3D-digitalものづくり実践講座などを行った。令和7年度は、事業の強化に向け『**連携支援コンソーシアム**』を加えた体制を構築するとともに、自治体や企業と連携し、プログラムを拡大している。

R6年度受講者アンケート結果

- ・受講者35名
- ・受講生満足度：100%
- ・受講生のうち約45%が管理職以上

R6年度受講者の声

- ・社員教育へ活用できる講座内容だった。
- ・後継者や中間管理職を受講させたい。
- ・ITスキル、観光に関する講座を希望する。



リカレント教育講座を契機とした新たな展開

リカレント教育講座を担当した奈良女子大学文学部の教員の研究シーズと、受講者が所属する半導体企業のニーズがマッチし、**共同研究に展開**している。



<教育と研究を通じて地域と社会に貢献するために> 奈良教育大学では、学校教員、こどもやその保護者を対象とした、**ならやまオープンセミナー（公開講座）**を開催している。奈良女子大学では、社会人対象のリカレント教育プログラムや文化財継承者の担い手を対象とした履修証明プログラムとして「**奈良で学ぶ文化財学**」（博士前期課程）を展開している。

ならやまオープンセミナー

【受講生の声】

- ・こどもたちへの関わり方を見直すきっかけになり、これまでの教育観が変わるような研修だった。

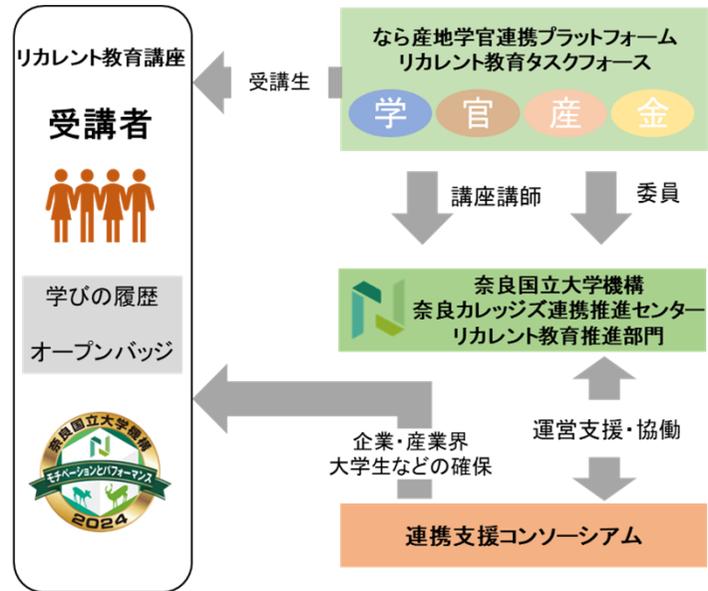
奈良で学ぶ文化財学

【受講生の声】

- ・専門知識の取得や生涯学習の良い機会となった。
- ・講義だけでなく、踏査や現地説明もあり、良かった。

期待できる成果・評価

- ①地域全体の学び直しの機会拡充で、経営者の意識改革や社員のスキル向上による地元企業の活性化、
- ②地域のニーズを踏まえた教育プログラム実施により「**地元企業への人材供給**」や「**奈良への若者の定着**」の促進、
- ③大学の研究シーズと企業ニーズのマッチングによる「**新産業の創出**」や「**共同研究・開発**」などを成果として期待している。



リカレント事業の概要

参考URL

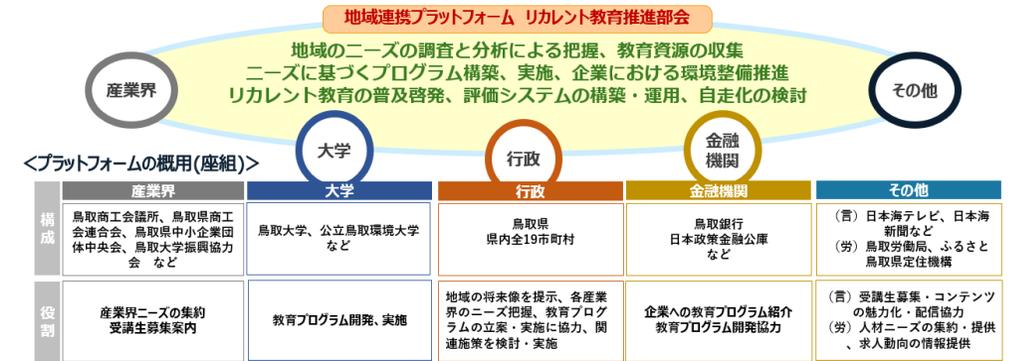
- ・奈良国立大学機構
<https://www.nara-ni.ac.jp/research/recurrent/>
- ・なら産地学官リカレント教育プログラム
https://www.nara-ni.ac.jp/nara_colleges/recurrent/
- ・ならやまオープンセミナー
<https://www.nara-edu.ac.jp/graduate/courseindex/>
- ・奈良で学ぶ文化財リカレント教育プログラム
<https://graduate.bungaku.nara-wu.ac.jp/recurrent/recurrent-edu-program/>
- 履修証明プログラム
<https://graduate.bungaku.nara-wu.ac.jp/recurrent/certificate-program/>

表題 とっとり経営者の学びを改革-とっとり創生リカレント教育エコシステム構築事業の取組-

鳥取大学は、令和7年4月に「地域未来共創センター」を設置し、リカレント教育推進部門を新設することで、機能を強化している。本事業では、地域連携プラットフォームの中に「とっとりリカレント教育推進部会」を設置し、地域のニーズとして、経営者が外部人材との共創により課題を解決するための「学び」に焦点をあて、リカレント教育の機会を提供し、「学びはじめ、続ける」環境を整えることを目的とし、「学び」と「地域活性化」の好循環を生み出し、「鳥取創生2.0」の実現に貢献することを目指す。

リカレント教育推進部門のコアプログラムとして、9月と11月には経営者向けシンポジウム「とっとり経営会議」を、10月と11月には地域の中小企業経営者対象に「経営学基礎講座」を、また10月から12月にかけて成長意欲の高い地域の中小企業経営者向け「鳥取エグゼクティブMBA講座」を実施した。

スキル別アプリケーションまたはニーズ対応実践プログラムを経営者への生成AI理解促進と社内への導入の意識づけを目的に実施した。10月、11月には「生成AI活用体験プログラム」を実施した。また、現在鳥取県内3エリアの3企業を対象に「生成AI導入モデルプログラム」をトライアル実施し、企業への生成AI導入による課題解決実践事例を作成を行っている。



開催したコアプログラム及びスキル別アプリケーションプログラムの受講者の満足度は高い結果が得られ（いずれも75%以上）、さらに経営者の「学び」の継続性が見られた。地域の中小企業経営者の「学びはじめ、続ける」の環境整備を整えることができ、来年度以降もプログラムを継続する予定である。

また、現在進めている「生成AI導入モデルプログラム」のトライアル実施の結果を踏まえ、地方都市鳥取のための教育プログラム開発につなげていく予定である。

参考URL

鳥取大学地域価値創造研究教育推進機構地域未来共創センター（愛称：Tottori uniQ）HP
<https://www.tottori-u.ac.jp/institute/cat/tottori-uniq/index.html>

大学名 広島大学

表題 地域企業の実課題に対応したAI・DX分野のリカレント・リスキリング教育の推進

【特色ある取組】

- 令和2年10月に、本学の関連教員や実務家教員により、AI・データイノベーション教育研究センターを設置以来、AI・DX分野のリカレント・リスキリング教育に注力。
- センターでは、社会人を対象に、本学教員による基礎的専門教育に加え、経済産業省による企業データに基づく実践的ケーススタディ教育プログラムである「マナビDXクエスト」を活用(国立大学初)するなど、企業の実課題に対応した教育を実践。
- 令和7年度からは、文部科学省の支援を受けて、地域の産学官金で構成する「ひろしまAI・DXリカレント教育推進プラットフォーム」を構築。
- 同プラットフォームの検討を経て、新たに全6回のリアル開催(各2時間程度及びワークショップ・視察含む)の「AI・DX経営イノベーション促進プログラム」及び地域の個別企業の実課題を伴走支援する「AI・DXビジネス課題解決プログラム」を開始。
- プログラムの実施に当たっては、リスキリング施策(第1回日経リスキングアワード最優秀賞)・DX施策先進県である広島県と連携して、効果的に事業を運営。

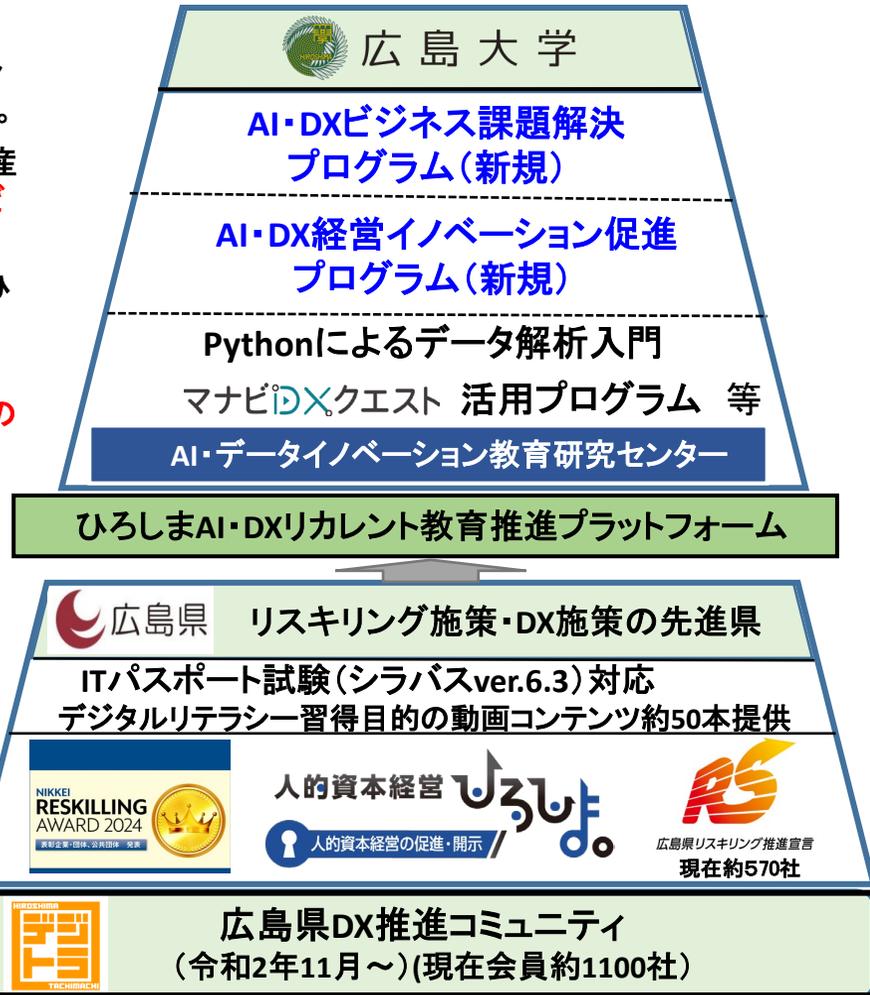


会場：広島大学 地域連携フロア SENDA LAB (広島市)

【期待できる成果・評価】

○AI・DX経営イノベーション促進プログラムは、技術者中心ではなく、地域の中堅・中小企業の経営者等(40名)を募集対象としたが、広島県の関係先等と連携することにより、所期の目的の受講者のレベルと人数を確保。

○AI・DXビジネス課題解決プログラムでは、地元の新聞社(中国新聞社)とプロバスケットボールチーム(ドラゴンフライズ)と連携し、AIを分析ツールとして活用したHPを運営する地域応援プロジェクト(バスケ分析ラボ)等を伴走支援。



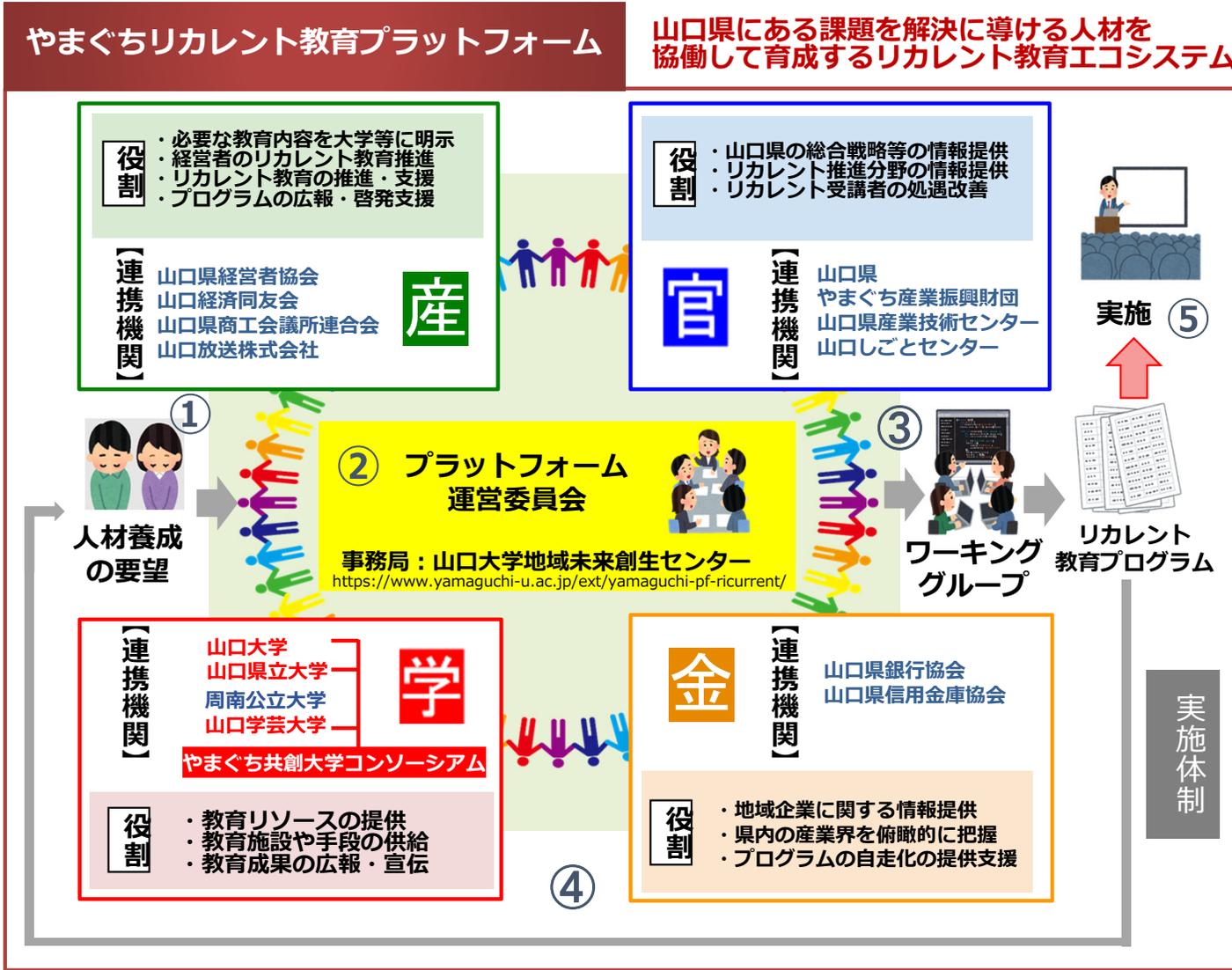
参考URL

- AI・データイノベーション教育研究センター: <https://aidi.hiroshima-u.ac.jp/>
- AI・DX経営イノベーション促進P: https://aidi.hiroshima-u.ac.jp/hiroshima_ai_dx/
- バスケ分析ラボ: <https://www.chugoku-np.co.jp/feature/dragonflies>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 山口大学

表題 やまぐち地域人材育成維新プラン～山口県の持続的発展のためのリカレント教育PF構築



- 実施の目的・目標**
- ◆山口県の活性化への諸課題を産・学・官・金で横断的に共有できるエコシステムを構築する
 - ➔ **やまぐちリカレント教育プラットフォーム**
 - ◆諸課題それぞれについて、解決に導ける人材を育成する教育システムを整える
 - ➔ **プラットフォーム運営委員会**
 - ◆解決手段としてデジタルを身に付けた人材育成のため、既実施事業を活用する
 - ➔ **やまぐち共創大学コンソーシアム**

- 事業概要**
- ◆県内の団体等からの人材養成の要望(①)をプラットフォーム運営委員会(②)が受けて検討し、立ち上げたワーキンググループ(③)により、リカレント教育プログラムが要望者への提示後(④)に実施(⑤)される。
 - ◆山口県経営者トップセミナーから開始し、4大学のこれまでのリカレント教育の実績を活用しながら、県内の諸課題を解決できる人材を育成するプログラムを新規に開発する。

- 提供プログラム**
- 山口県経営者トップセミナー (定員30名)
 - コンビナートDX人材育成プログラム (令和8年度実施)
 - 従業員の健康管理実践教育プログラム (定員40名)
 - 医療福祉経営教育プログラム (定員40名)

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

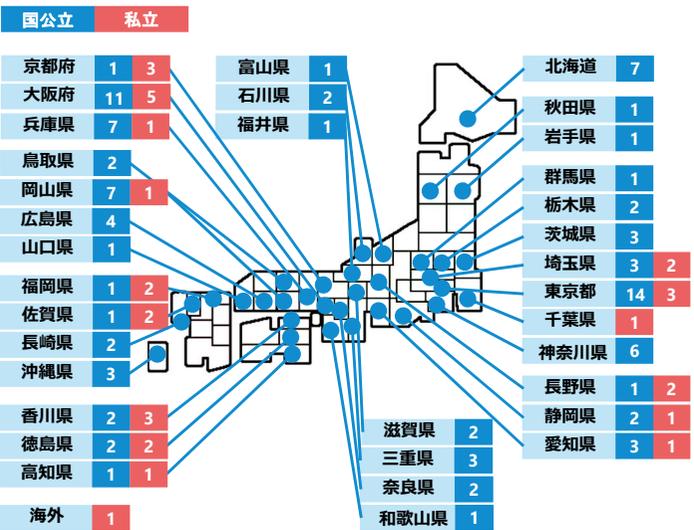
大学名 鳴門教育大学

表題 現職教員が働きながら学ぶ教職大学院遠隔教育プログラム（仕事と学びの好循環を実現）

- 鳴門教育大学では、教職大学院における学修を広く提供するため、教育委員会派遣による修学が困難な現職教員を対象として、インターネットを活用した遠隔教育によって教職大学院での修学が可能な「教職大学院遠隔教育プログラム」を開設しています。
- 2022年度の開設以来、2025年度までの4年間で全国から132人の現職教員が「働きながら」教職大学院で学び、教員の高度化に貢献しています。
- 「働きながら」学ぶことで、学校で直面している実践的課題と、大学院での学びを即時的に結びつけた学修（理論と実践が融合した学び）が可能です。
- 鳴門教育大学の遠隔教育プログラムは、現職教員が働きながら学ぶことができる教職大学院であるとともに、働きながら学ぶことのメリットを最大限に生かす学びの仕組みを備えています。

高い学修ニーズ

年度	2022	2023	2024	2025	計
入学者数	32人	38人	33人	29人	132人



特色

徹底した支援体制

(進捗モニタリングと専任アドバイザー)

- ・学修管理システムの導入による学修状況のモニタリング
- ・専任アドバイザーを配置し、履修方法のサポートのほか、授業での質問等も大学教員との調整を担当

最適な学修設計

(個別・協働学修のベストミックス)

協働学修コミュニティ (院生同士の学び合い) ↔ 個人での学び

大学教員による伴走型指導



柔軟な履修方法

(勤務状況に応じてオーダーメイド)

3～5年の修業年限・リアルタイム授業は就業時間後の時間割
オンデマンド授業は都合に合わせて自由に受講

期待される成果

- 遠隔教育で現職教員の学びを確保**
全国どこからでも働きながら学べる環境を整備し、現職教員の教職大学院での学修機会確保を実現
- 学びの機会が専門性を育む**
教職大学院での学修により、最新の教育理論やICTスキルを身につけた高度専門職教員が増加
- 専門性の高い教員が教育を変える**
高度専門職教員が核となって学校全体の指導力が加速し、子どもたちの学びが着実に伸長

参考URL

遠隔教育プログラム紹介ページ
<https://www.naruto-u.ac.jp/pro-enkaku/>
 遠隔教育プログラム受講生の様子（動画）
<https://youtu.be/07vJm9-LCHo>

大学名 香川大学

表題 人生の景色を変える“学び直し”で地域の未来を創る

実績

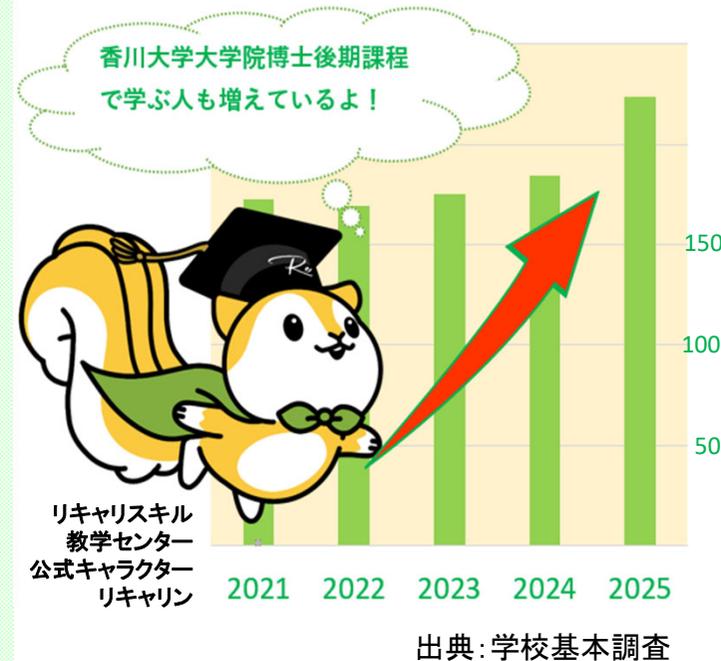
香川大学では、社会人の学び直しを総合的に支えるリカレント・リスキリング教育を積極的に展開しています。中四国で初となる地域マネジメント研究科は22期生を迎え、地域の高度専門人材を育成する拠点として中心的な役割を担っています。また、文理融合型の創発科学研究科では、博士前期課程に加えて2年目を迎えた博士後期課程にも多くの社会人が在籍し、異分野交流と地域課題の解決につながる学びが広がっています。さらに、リカレント専門講座には継続的に社会人が参加しており、一部は大学院へ進学するなど、社会人教育から学位課程への接続も着実に進んでいます。

現在の取り組み

令和6年には、社会人の学び直しを総合的に支援する「リキャリスキル教学センター」を新設し、ウェブサイトやSNSによる情報発信、企業訪問、個別相談など、多角的な支援体制を整えました。あわせて、地域の高度専門人材ニーズに応えるため、地域医療分野の高度化をめざす「医用工学ユニット」を創発科学研究科に令和8年度に設置する予定です。また、博士号取得者による講演会や社会人学生との座談会など、多様なイベントも開催し、地域で学び直しが広がる環境づくりに取り組んでいます。

今後の計画

今後は、DX・AI分野の実践的プログラムや、大学院進学をめざす社会人向けの基礎的リスキリング講座など、独自の教育プログラムも開発していきます。また、多様な広報・発信を展開し、受講希望者に寄り添った丁寧な相談支援を継続することで、社会人のキャリア形成と地域社会の持続的な発展に貢献していきます。



文理融合を掲げる創発科学研究科で学び、実感したことは？

入学した院生が多様で、文理の垣根を超えた学びが刺激になった



リキャリスキル教学センター 2024年4月新設
<https://www.recarin.kagawa-u.ac.jp/>

・社会人の大学院進学に関する多角的なサポート
～ HP新設・Instagram・企業訪問・個別相談を開始 ～



大学名 **愛媛大学**

表題 **しまなみ未来社会人材育成プラットフォームによる「地域ハブ人材の育成」**



① **地域創生イノベーター育成プログラム (63時間)**

共同実施者である広島大学の協力を得て、「ソーシャルイノベーター」育成のためのリカレントプログラムを実施。「海事・海洋分野」および「グリーンイノベーション分野」に焦点を当てた人材育成を行う。特に今年度においては、企業・行政・NPOといった多様なセクターにおいて計画立案や事業実施に対応できる「トライセクター型人材」の育成を目的とする。「**水素社会エクステンションプログラム**」の試行や、アウトリーチ活動としての「**スマート社会産官学民まちづくりフォーラム2025**」への出講などのオプションも豊富。

② **経営者・管理職セミナー**

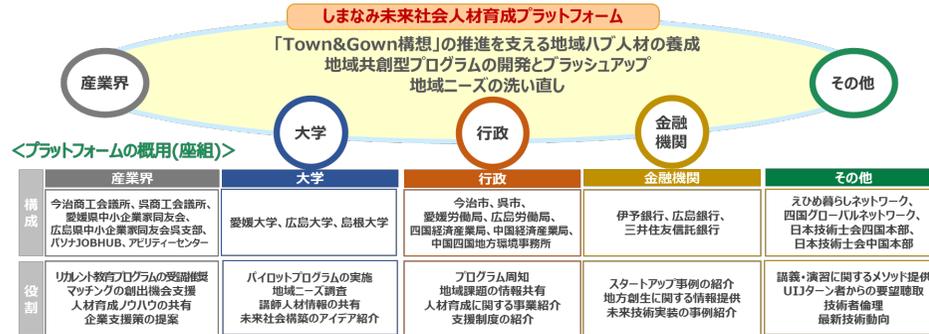
プラットフォーム構成員である商工会議所や中小企業家同友会・国出先機関・地域金融機関と連携し、先進事例を紹介する有識者を交え、①イノベーションによる可能性、②中堅層再教育の重要性、③リカレントプログラムの概要などについて話し合うワークショップを開催し、経営層・管理職及び人事部門担当者のリカレント教育の推進の支持拡大を目指す。今年度は、愛媛県今治市および広島県呉市の2会場において、各2回開催した。

愛媛大学・広島大学共催セミナー
第2回
12月17日(水) 18:00~20:00
参加費 無料
会場 呉 阪神ホテル (広島県呉市中央1丁目1-1) 6階特別会
講師 佐藤 浩司 (愛媛大学 地域創生推進センター 副センター長) 佐藤 浩司 (愛媛大学 地域創生推進センター 副センター長) 佐藤 浩司 (愛媛大学 地域創生推進センター 副センター長)

【期待できる成果】

受講者においては、①受講目的の明確化とスキルアップ、②最先端の社会動向への即応力の強化、③働き方改革と緻密な執行体制の両立、の成果が期待できるほか、実施者側においても、体系的な地域創生プログラムの構築と連携が図られることが期待されている。

しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム



令和6年9月、愛媛県と広島県の産学民官23団体が参加して発足。令和7年度には、広島大学と共同で文部科学省の「**リカレント教育エコシステム構築支援事業**」の採択を受け、愛媛県今治市と広島県呉市を拠点に地域ハブ人材の育成に向けた取組を推進。「地域創生イノベーター育成プログラム(東予)」、「水素社会エクステンションプログラム」、「経営者・管理職セミナー」、「地域共創型リカレントプログラム実務者サミット」の実施に取り組むこととしている。また、地域共創型リカレントプログラムや地域人材育成に関する調査をシーズとニーズの双方から広く実施し、情報集積を図っている。

- 1 **Town&Gown構想の推進**
学官・産学官・産学民官の協業により、GXやDXなど、**未来社会の構築**を図るための**Town&Gown構想の地域展開**に向けて、まずは地域企業や地方自治体の経営層や管理職を「**地域ハブ人材**」として育成。
- 2 **海洋・海事都市としての特色再確認**
Town&Gown推進協議会に加盟している今治市・呉市の双方とも、海洋・海事分野に歴史・産業・文化が深く関わってきた経緯。→都市のアイデンティティを取り戻すため**海洋・海事分野の知見を企業・市民が俯瞰**できる「社会人教育」の機会を創出。

【参照ウェブサイト】

全国事例集 https://www.mext.go.jp/content/20250624-mxt_syogai03-000040006_1.pdf
地域創生イノベーター育成プログラム(東予) <https://chiikijn.ccr.ehime-u.ac.jp/post-1726/>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキング教育」

大学名 九州大学

表題 戦略事業子会社「九大OIP(株)」を活用した、リカレント教育エコシステムの構築

特色ある取組

・2024年4月、研究成果の社会実装をさらに加速化させることを企図して、**学内の産学連携に関わる実務機能を1つに集約した戦略事業子会社「九大OIP株式会社」**を設立

・リカレント教育の総合調整を行う未来人材育成機構と九大OIP(株)の連携の下、**産学連携による価値創造を行う人材の育成を目的とした教育プログラムの開発から提供を持続的に回すためのエコシステム**を構築中(マーケティング、教員インセンティブ設計、経費積み上げ式を脱却して市場価値を基準にした価格設定等)

・2025年6月より、文部科学省の令和6年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」の採択を受け、**産業界からのニーズの高い、建築DX・半導体経営・洋上風力の3分野について、教育プログラムの開発と提供**を開始



期待できる成果

【エコシステム構築により期待できる成果】

・本学の**ブランド価値向上へ寄与し、各種施策への波及**が期待できる(共同研究・組織的な包括連携・ベンチャー創業・知財ライセンス・寄附・社会人進学等)

【3プログラムの実施による現時点での成果】

・建築DX54名、洋上風力201名の受講があり、半導体経営も10名の受講見込み
・**受講生がきっかけとなり、企業との共同研究に向けた商談が実際に進み始めている**

参考URL

・最先端の建築分野DXを学ぶリカレント教育
<https://dbe.kyushu-u.ac.jp/recurrent/>

・九大OIP株式会社
<https://ku-oip.co.jp/>

・未来人材育成機構
<https://mirai.kyushu-u.ac.jp/>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 佐賀大学

表題 心理的安全性を構築し、エンゲイジメントを促進するための、1on1実践プログラム

取組の経緯

- 佐賀大学は企業の個別ニーズに応えるオーダーメイド型リカレント教育を展開している。
- その一環で、企業から「従業員エンゲイジメントを高めるため、管理職が1on1(上司と部下の1対1の定期面談の場)を効果的に実施するための研修を行い、さらに効果検証までしてほしい」という要望を受け、本研修プログラムを設計・実施した。

プログラムの目的

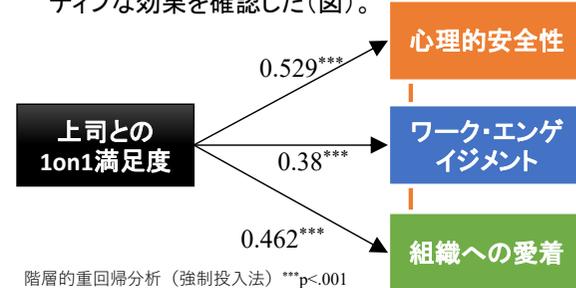
- 1on1の効果的な実践に必要なとされる、以下の知識やコミュニケーションスキルを習得する。
- 部下の話を共感的に聴くスキルを身につける(傾聴)
- 部下の良いところを発見し、効果的に賞賛(承認)するスキルを習得する(アサーション)
- 高ストレス場面でも、冷静さを保つための思考法を身につける(ストレスマネジメント)

期待される成果

- 組織**
 - 心理的安全性(職場で意見や考え等を率直に述べても、対人関係が脅かされないという信念が共有された状態)の醸成
 - 従業員エンゲイジメント(組織への信頼感や愛着、貢献意欲)の向上
- 受講者(管理職)**
 - 部下との信頼関係構築
 - ワーク・エンゲイジメント(仕事への活力や熱意)向上
- 部下**
 - 仕事への自律性、主体性、パフォーマンス向上
 - ワーク・エンゲイジメント(仕事への活力や熱意)向上

効果測定について

- プログラム前後に調査を実施し、期待される効果がみられるかを検証する(現在、2回目調査実施中)。
- 部下への1回目調査からは、1on1満足度向上による、ポジティブな効果を確認した(図)。



プログラム概要

対象: 管理職・経営職
期間: R7年8月-10月(2時間×3日間)
受講人数: 39名



カリキュラム

	1日目(8/4)	2日目(9/16)	3日目(10/27)	
アンケート調査①	<ul style="list-style-type: none"> 【1】なぜ1on1が重要なのか 【2】部下に信頼される共感的な聴き方のコツ、積極的傾聴プログラム 【3】職場での実践計画と目標 	<ul style="list-style-type: none"> 【1】職場実践の振り返り 【2】部下の強みを見つけ、効果的に賞賛するための、アサーションプログラム 【3】職場での実践計画と目標 	<ul style="list-style-type: none"> 【1】職場実践の振り返り 【2】冷静さと安心感を備えたリーダーになるための、ストレスマネジメントプログラム 【3】職場での実践計画と目標 	アンケート調査②③
		職場実践 1on1(傾聴)の実践と振り返り	職場実践 1on1(賞賛)の実践と振り返り	半年後

参考URL

- 事例紹介
<https://www.oge.saga-u.ac.jp/ceportal/pdf/program-ex-kimura-information-technology.pdf>
- オーダーメイド型リカレント教育について
<https://www.oge.saga-u.ac.jp/ceportal/program/>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキング教育」

大学名	国立大学法人 大分大学 / おおいた地域連携プラットフォーム
表題	プラットフォーム生まれの地域ぐるみリカレント：おおいた共創士マイスター認証

特色ある取組

大分大学が軸となり、産官学金の63組織から構成される“おおいた地域連携プラットフォーム”を、地域課題解決、人材育成などの対話の場として運営してきました。このオール大分活動の起源は、2015年のCOC+文部科学省事業で、現在までに信頼関係の輪を太く強化してきました。

この地域資産を活用して、本学は、社会人リカレント教育の舵取りを2023年から開始・継続しています。

2025年度に約100名の受講者に対し取り組んでいる4つのリカレント教育を、右表にまとめています。特色は、厳格な数値評価による“**おおいた共創士マイスター認証**”です。下の模式図のように、リーダー候補者の育成を目的としたマイスターコースでは、異業種の社会人同士のぶつかり合いと共創経験を通じてマイスター認証評価（デジタルバッジ付き）を行っています。

受講者の声「私自身の今後の経営に生かせるものと確信しております。幹部職員を参加させたいと思いますので、是非次回も実施してください。（経営者）」

期待できる成果

次の成果が期待できます：

- ・ 学び直しに対して興味を持つ社会人を増やす
- ・ **おおいた共創士マイスター認証者**が、卒業後に自発的に地域の社会課題テーマから新しい価値を生み出す
- ・ 地域ぐるみで社会人が「**学び合う場**」として国立大学が持つ考える力などの知の資産を有効利用できる

学びコースと負荷の質と量：負荷量 ◎◎ > ◎ > ○ > △

2025年度のコース(人数)	E-Learning	対面型
マイスターコース(14)	◎	◎◎
トライアルコース(45)	△	—
女性社会人リカレントコース(13)	○	◎
経営者啓発コース(11)	○	△
上記の受講者の上司(9)※ 伴走者(9)※	参観 参観	参観 伴走

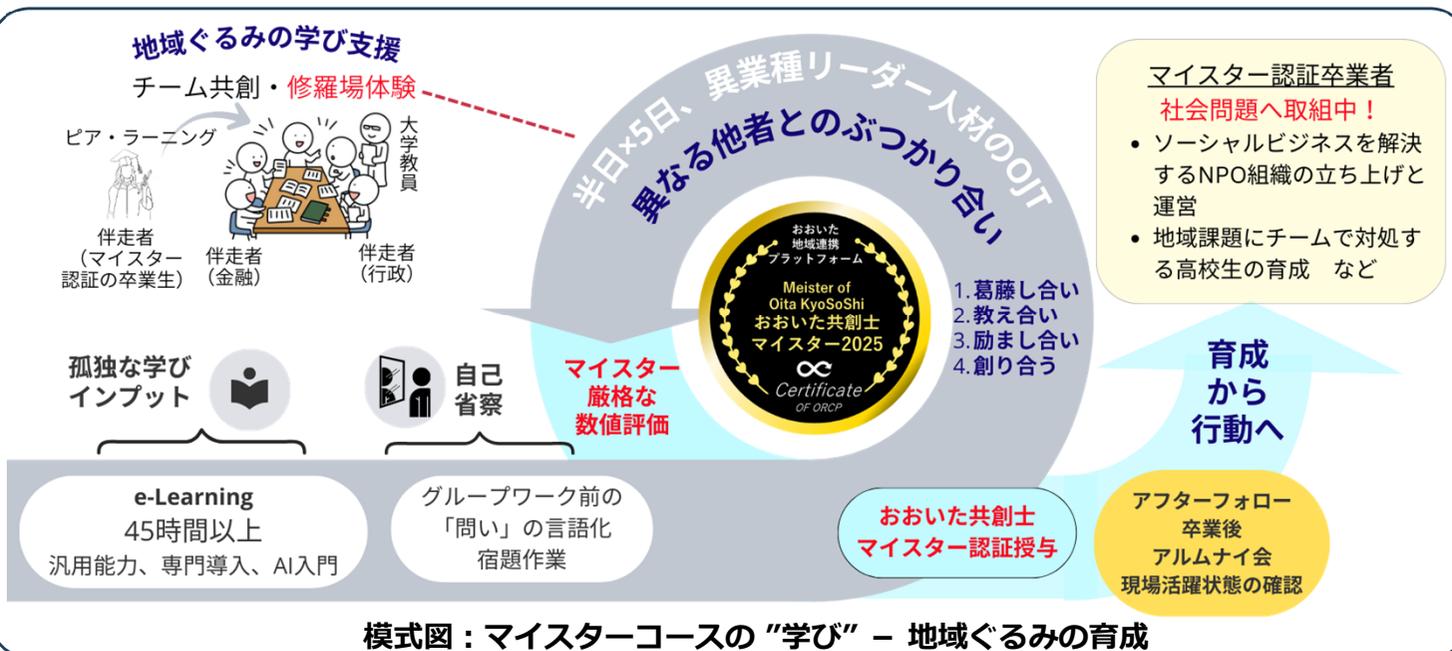
※目的: 管理者層への学び浸透

受講者が、異業種の参加者とぶつかり合う学びと共創の場

取組の現場



マイスターコース・グループワークの様子



模式図：マイスターコースの“学び” - 地域ぐるみの育成

参考URL

- ・ 2025年度の取組
https://oita-platform.org/recurrent_preparation2025/
- ・ 2024年度の取組
https://oita-platform.org/recurrent_preparation2024_sub01/

大学名 鹿児島大学

表題 教員不足解消に寄与する潜在教員等を対象とした『学校教育キャッチアップ講座』

【履修証明プログラム「学校教育キャッチアップ講座」】

- 鹿児島大学では、教員免許更新制が令和4年7月1日から発展的に解消されたことに伴い、令和5年度から履修証明プログラム「学校教育キャッチアップ講座」として、教員研修事業を継続しており、教師教育開発センター及び教育学部等の教員が講師を務めて展開している。
- 本講座は、潜在教員や再任教員等が学校教育の最新動向に追いつく（キャッチアップ）とともに教職の基本を再確認して、自信をもって教壇に立つことができるように、以下10科目計60時間の講習を実践的かつ体系的に学んでもらうものである。
 - ①教育の最新事情と基盤 ②特別活動・総合的な学習の時間 ③家庭・地域との連携・協働
 - ④発達心理と生徒指導・教育相談 ⑤進路指導・キャリア教育 ⑥教育の情報化
 - ⑦国際理解・異文化理解 ⑧道徳教育 ⑨特別支援教育 ⑩教科指導の最新事情
- 本講座は、鹿児島県教育委員会の「かごしまの先生スタートプログラム」にも組み込まれ、鹿児島県と業務委託契約を締結し、受託事業費を得ている。さらに令和7年度以降の教員採用試験において、本講座の修了者は加点対象となる制度的な後押しも獲得している。これらの行政連携の深化と制度設計への反映は、大学のプログラムが地域の教員確保戦略の「基盤」に位置付けられた証左だと言える。

(講座の様子)



【期待できる成果・評価など】

- 令和5～6年度修了者累計55名のうち6割以上が正規採用及び臨時的任用教員になる等、成果が採用試験合格実績に直結している。
- 教員不足という社会的課題に対し、潜在教員の採用試験合格者を着実に生み出し、鹿児島県教育委員会の施策にも組み込まれることで、制度的に持続可能な解決経路を提示している。

【参考URL】

教師教育開発センターHP

<https://www.tepd2-kadai.jp/home>

「学校教育キャッチアップ講座」募集要項

<https://www.tepd2-kadai.jp/events/Certificate-Program>

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 琉球大学

表題 「琉球大学デジタルリスキリング協働推進ラボラトリー(Dラボ)」の取り組み

デジタル人材の育成拠点として、令和5年度に「琉球大学デジタルリスキリング協働推進ラボラトリー（Dラボ）」を学内に設置。県内14団体の連携協定を締結するとともに、動画配信システム「RICCA DX」を公開し、DX動画コンテンツを無償提供している。今年度は、事務系職員向けDX推進SD研修の実施や、学生のDX人材育成と併せて、企業の業務改善に向けたDX活用の伴走支援を、学生とともにPBL形式で一体的に実施している。今後離島各地でRICCADX セミナーやワークショップも開催する予定。これらの取組を通じて、地域全体のDX人材育成と業務効率化、労働生産性の向上を図り、沖縄県内のDX底上げに寄与するよう努めている。



学生と企業の打合せの様子

課題の事例

沖縄県内中小企業に対するDX支援において、以下の課題が顕在化している。

- AI活用のジレンマ：業務効率化への期待がある一方、情報漏洩リスクへの懸念が導入の障壁となり、現場活用が停滞している。
- 知識提供型支援の限界：多数の動画教材を整備したが、多忙な現場において学習時間の確保自体が業務負荷となった。
- 高難度課題への早期着手の弊害：初期段階で高度な課題に取り組んだ結果、ツールは完成しても担当者のスキルが定着せずその後の横展開が困難となっている。



成果発表の様子

解決策

- Vibe Codingへの転換：困難な課題解決（Must）よりも、即座に動く成果物による感動体験（Wow）を最優先する方針へ転換した。
- 技術的安全性：以下の手法で安心と即効性を両立する。
 - ・完全ローカル環境：処理をPC内で完結させデータ流出を防止。
 - ・AIの限定利用：AIはコード生成のみに使用し、業務データは入力しない。
 - ・疑似DB：ローカルJSONを活用し、外部サーバーを利用しない。これを伴走支援にて実施。



成果と展望

1. 自走型人材の創出と定着（実績）：3社への伴走支援を実施した結果、全社において自発的に開発に取り組む人材が誕生した。従来の受動的な姿勢から脱却し、現場職員が主体的に業務改善ツールを開発・実装する行動変容が確認されている。
2. 個から組織への波及プロセス：個人の業務効率化から始まったツール開発が、周囲への普及を経て、組織全体の業務フロー改善へと発展する兆候が見られる。「点」の改善が「線・面」の改革へと有機的につながり始めている。多数用意した動画コンテンツも人事評価に使われる事例が生まれた。
3. 地域DXとリスキリング拠点への進化（展望）：今後は業務プロセス管理（BPMN）やデータ活用（グラフ化等）の視点を強化し、実質的な生産性向上を目指す。同時に、大学が実践的なリスキリング機能を提供する「地域DXのハブ」として機能することが期待される。



参考URL:

<https://dlab.skr.u-ryukyu.ac.jp/>
[RICCADX:https://ryukyu.uishare.co/](https://ryukyu.uishare.co/)

第77号 特集テーマ「リカレント・リスキリング教育」

大学名 人間文化研究機構 国文学研究資料館

表題 日本古典籍講習会—知と実践から学修する日本古典籍と明治期文献—

国文学研究資料館は国立国会図書館と協働し、毎年、4日間の研修「**日本古典籍講習会**」を開催している(後日の講義配信あり)。対象は**古典籍の所蔵機関**でそれらを扱う担当職員、とくに担当から日の浅い方が多く受講し、海外からのアクセスも少なくない。国文学研究資料館では、教員と司書等が古典籍および明治期文献について書誌学、文献学、蔵書史、目録学など複合的視点から講義を行うとともに、貴重書を含む多くの原本を展観、受講者はそれらを手に取って観察し、調査技術や目録作成等を学修する。

日本古典籍のデジタル化は急速に進んでいるが、データは原本そのものではない。**デジタル時代だからこそ、原本への知的好奇心は高まっており、次代へ繋ぐリカレント・リスキリング教育が重要である。**

参考URL

・国文学研究資料館HP「日本古典籍講習会」募集要項・講義資料・配信情報

<https://www.nijl.ac.jp/i-activity/expert/librarian/>

・国立国会図書館HP「日本古典籍講習会 2025年度」

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/guide/kotenseki2025.html>

- 「知と実践」の双方から書物への総合的理解と整理分析、データの活用技術等を習得。
- 若手研究者にも開放し、総合研究大学院大学日本文学研究コースの科目「資源研究演習」として単位化。
- 書物という文化資源がどのように学ばれ、伝えられていくのか、次世代の研究者と所蔵機関の職員とが一堂に会して考え、学び合う場の創成。

